

わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

3

2015.3 NO.437

春風号
第66巻5号



本年度、小中併設30周年を迎え、記念式典を開催しました。続いて行った「今須ふれあい交流会」では、児童会・生徒会が中心となって、30年を振り返るプレゼンテーションや今須クイズ、合唱交流などを企画して進めました。

これからも小中併設の良さを生かして伝統を守り育てていきたいと思っています。

せき が はらちょうりつ いま すしょうちゅうがっこう
関ヶ原町立今須小中学校

●【学校の教育目標】

「豊かな心をもち
たくましく実践する児童生徒」
かしこく やさしく たくましく



記念植樹と記念石碑の除幕式も行いました。



【ぎふしりつ ひのしょうがっこう】

岐阜市立日野小学校

- 住所 〒500-8207 岐阜市日野北1丁目4番1号
- TEL (058)246-4888
- FAX (058)246-4881
- メール gisyo10@hino-e.gifu.gif.jp
- 児童数 376名



▲校舎

校歌



日野小学校校歌

作詞 平光善久
作曲 恩田忠彦

一、舟伏山にのぼるひが

窓いばにさしこんで

学びの庭に朝がくる

正しく深い考えで

みらいのゆめをえがくのは

日野の子われら

日野の子われら

理想の世界きずくのは

日野の子われら

日野の子われら

日野の子われら

胸いばにみちみちて

仰ぐひとみによびかける

のびゆくからだ作るの

日野の子われら

日野の子われら

日野の子われら

日野の子われら

日野の子われら

日野の子われら

日野の子われら



日野のゆるキャラ「ヒーノン」

学校の教育目標 豊かな心で たくましく やりぬく子 かしい子 やさしい子 たくましい子

日野小学校の願い

「学校が好き！学校が楽しい！」そんな明るい地域に根ざした『ふるさと 日野 大好きスクール』をめざし教育活動を推進しています。そのために、
○仲間と認められ、存在感の持てる安全で安心な学校にしていきたい

○保護者と地域からの信頼のもとに三者の連携を意識しながら実践できるコミュニケーションスクールにしていきたい

沿革・地域の自然や風土

本校は、明治七年、校名を「果能舎」として創立され、昨年度、創立百四十周年を迎えました。日野古墳、鎌倉時代末期に造られた木造獅子頭等を有す大変歴史ある地域です。また、校舎の北を清流長良川が流れ、西に鵜飼大橋、金華山がそびえ、風光明媚な地域です。さらに、達目洞には絶滅危惧種の植物「ヒメコウホネ」が自生しており、豊かな自然に恵まれた地域でもあります。

平成二十五年年度「コミュニケーションスクール」としてスタートし、「日野まちづくり協議会」と連携しながら、地域の子供を

地域一体となって育てています。

学校のたからず①

『ふるさと 日野 大好きスクール』をめざした取組

よく学び

○ICTを活用した授業

電子黒板やデジタル教科書を活用した「分かる授業づくり」に取り組んでいます。算数科において、リピランの活用や習熟度別少人数指導、課題解決型と技能習熟型授業を工夫し、確かな学力の定着を図っています。

○算数科の校内研究

また、「家庭学習の手引き」を作成し、保護者の協力を得ながら六年間の系統性を大切にした家庭学習ができるようにしています。

また、「家庭学習の手引き」を作成し、保護者の協力を得ながら六年間の系統性を大切にした家庭学習ができるようにしています。



▲電子黒板を活用した授業

いつも笑顔で

○思いやりの心の醸成

○挨拶

○公共心の育成

一人一人のよさや違いを認め合い、思いやりの心で仲良く活動できるよう取り組んでいます。

平成二十四年二月、東日本大震災からの復興を願って本校出身のシンガーソングライター香理さんとメッセージソング「ミライノウタ」を作り、CDと千羽鶴を気仙沼市立松岩小学校に届けました。今でも「ミライノウタ」を歌い続け、日野小の宝物になっています。

また、児童会を中心とした活動も活発に行っています。

「挨拶キャンペーン」では、四色のTシャツを着た『やまびこレンジャー』が校門に立って、挨拶運動を行います。相手より先にあいさつをする「先がけあいさつ」や相手のあいさつに元気に応える「やまびこあいさつ」に取り組んでいます。縦割りグループでの「かがり火活動」は、六年生がどの学年も楽しく遊べるよう念入りに企画をし、進行しています。みんなが笑顔で活動できるよう工夫するとても頼もしいリーダーに育っています。



▲香理さんとミライノウタの録音

くじけずに

○めあてのある生活

○体力づくり

○さしすせそうじ

児童一人一人がめあてをもち、それに向かって努力することの値打ちとその達成感を味わえるように取り組んでいます。

体力づくりでは、児童会体育委員会が中心となり、「日野っ子ギネス」と題した体力づくりプログラムに取り組んだり、全校大縄跳び大会を企画し、学級ごとにめあてに向かって粘り強

「ふるさと大好き部会」

地域の一人として地域活動への参加や参画を推進する。

○地域行事への積極的参加

地域の一員として、地域行事に積極的に参加し、たくさん褒めていただいています。

・日野地区文化祭に全校で参加し、四・五年生はステージ発表

・三年生：敬老会での「よっちよれ」披露

・四年生：地域の防災訓練や消防パレードに参加

・六年生：日野恵光の集いでの「ミライノウタ」合唱

・三・四年生：市民運動会で「よっちよれ」披露

などで活躍し、地域に元気を届けることができました。

これからも地域に根ざした学校をめざし、学校・保護者・地域の三者の絆をより強固なものにしていきます。

このことから地域に根ざした学校をめざし、学校・保護者・地域の三者の絆をより強固なものにしていきます。



▲小中連携あいさつ運動



▲文化祭 4年生によるステージ発表



【いびがわちょうりつ いびしょうがっこう】

揖斐川町立揖斐小学校

●住所 〒502-0619 揖斐郡揖斐川町三輪1332-2
 ●TEL (0585)22-1270
 ●FAX (0585)22-6782
 ●メール ibisyo@town.ibigawa.gifu.jp
 ●児童数 199名



校歌



揖斐小学校校歌

作詞 佐佐木信綱
 作曲 折本 吉数

一、千代も変わらぬ 城台の
 松の緑を 友として
 生い立つ庭の おしえぐさ
 栄ゆる郷土の うるわしさ

二、幸いと多き 揖斐川の
 清き流れに たぐえつつ
 みがききたえし 真心を
 世にぞつくさん とこしえに



▲日曜親子行事



▲揖斐川音頭



▲サポーターの方に感謝する会

学校のたからもの ③
家庭・地域との連携

・日曜親子行事
 毎年、二学期の日曜日に「日曜親子行事」として、家族で体験する活動を行っています。日曜親子行事では、PTAが中心となつてスポーツやものづくり、科学の実験、料理などの体験活動を行います。職員も講師になつたり、一緒に作つたりするなど、いろいろな形で参加をします。家族で料理をしたり、汗を流したりすることで、絆を深めるきっかけとなっています。

・読み聞かせ
 保護者や地域の方による読み聞かせ活動を行っています。子どもたちは毎回、読み聞かせを楽しみにしていて、目を輝かせて話を聞いています。

・揖斐川音頭
 運動会では揖斐川音頭を踊ります。地元の方を講師に招き、子ども、保護者、職員が一緒に輪を作り、踊りを楽しみます。

・サポーター活動
 地域の方によるサポーター活動も活発に行つてもらっています。「あいさつ」「畑」「図書」といった、それぞれの分野で学校を支えていただいています。あいさつ

サポーターさんは、子どもたちに声をかけ、気持ちのよいあいさつを交わしながら、安全に登下校できるように見守つていてくれます。畑サポーターさんは、学年ごとの畑の世話をていねいに行い、おいしい野菜が収穫できるようになっています。図書サポーターさんは、図書室の本の整理や飾りなどを進んで行い、子どもたちが使いやすい図書室にしてくれています。



▲読み聞かせ

学校の教育目標 元氣な子 考える子 心豊かな子



▲子ども歌舞伎



▲ICTを活用した授業

沿革 明治六年に協同義校として設立され、本年度で創立百四十二年を迎えます。

揖斐川町の中心付近に位置し、揖斐川や城台山など豊かな自然に囲まれています。また校区には、昔ながらの町並みも見られ、地域の伝統文化が息づいています。特に毎年、三輪神社で行われる「いび祭り」では、揖斐小学校の児童による「子ども歌舞伎」が奉納されるなど、地域に根ざした活動が行われています。

学校の教育目標「元氣な子 考える子 心豊かな子」の具現に向けて、休み時間には子どもと職員が一緒になって遊びながら体と心を鍛え、信頼関係を育てています。そして授業では、それぞれの考えを伝え合うこと

で、より深く追究し、高め合っているように活動を工夫して取り組んでいます。

学校のたからもの ①
コミュニケーション能力を育てる取組

自分の考えをはっきりと伝え、互いに交流しながら、理解を深め、高め合っていく子どもたちを育てるため、「コミュニケーション能力の育成に力を入れていきます。特に国語と外国語活動を通して内容を正しく理解する力や、自分の考えを積極的に表現しようとする姿勢を育てています。また、ICTを効果的に活用することで、考えをまとめたり、自信をもって発表したりできるようにしています。

子どもたちが一人一台タブレットPCを持ち、様々な場面で活用しながら学習に役立てています。また、情報モラルについても学習し、正しく安全に使用できるように全校で取り組んでいます。

学校のたからもの ②
学校の特徴を活かした活動

・なかよしウォーキング
 「学期に全校で、学校の裏手にある城台山を越え、町健康広場に向かうコースでウォーキングを行います。仲間と励まし合って登り、豊かな自然と触れ合います。揖斐川町の自然はすばらしく、新緑の中で食べるお弁当の味は格別です。

・むくの木集会
 一学期には、各学級の学習の成果を発表する「むくの木集会」を行います。それぞれの学年がテーマを決め、劇や朗読、合唱など様々な形で発表をしていきます。保護者や地域の方を招いて大勢の方に成果を見てもらいます。



▲なかよしウォーキング



▲むくの木集会



【なかつがわしりつ さかもとしょうがっこう】

中津川市立坂本小学校

●住所 〒509-9131 中津川市千旦林1460
●TEL (0573)68-2020
●FAX (0573)68-2056
●URL <http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/kyouiku/sakamotoes/>
●メール sakaes@city.nakatsugawa.gifu.jp
●児童数 829名(H26.12.1現在)



校歌



坂本小学校校歌

作詞 古山 新資
作曲 小木曾 薫

一、さくらもさくよ 坂本の
花の木の子 夢の丘
みんなでつくる よい学校
はたらく力 養おう

二、恵那の山すそ ひろがりて
ゆたかにひろく 土のきこ
はたらく力 養おう

三、羅漢の川に こだまする
平和の子らの 歌う声
とぶよ心も 明日の空

四、あらし吹け吹け 雪もふれ
負けぬぞ強いぞ 手をとろう
坂本我らの 小学校



▲あいさつ運動
代表が校舎をまわってのあいさつ

学校の教育目標 『かがやけ坂本の子』～かしこく・やさしく・たくましく～

沿革地域の自然や風土

坂本地区は校歌の歌詞にあるように、恵那の山すそに広がっています。その中心にほぼ位置する本校からは恵那山、笠置山、そして遠くに御嶽山を見ることが出来ます。また、本曾川に近い地域もあり、自然に恵まれています。北側は広い土地を利用して農業が行われていて、南側には大きな工業団地があり地元の産業の中心になっています。今後、リニアが本校の近くを通ったり、大型ショッピングセンターが出来たり、濃飛横断道路が出来たりと町が活気づくことが予想されます。そんな中、中仙道が通っている古い町並みや五百羅漢など歴史的文化施設がいくつかあります。新しいもの、古いものが混在した地域に子ども達は住んでいます。

本校は、明治四十二年に千旦林尋常高等小学校と茄子川尋常高等小学校が合併して、坂本尋常高等小学校となりました。その後、昭和十六年に坂本国民学校と改称して、さらに昭和二十九年に中津川市合併に伴い、中津川市立坂本小学校と改称されて現在に至っています。昭和三十九年にな

かよし学級(特別支援学級)が開設されました。現在、中津川市三十一校で、一番子どもの数が多いマンモス校で、普通学級二十四学級、特別支援学級四学級、計二十八学級です。昨年度、中津川市指定の研究発表を行いました。教材との対話、仲間との対話、自己との対話を大事にして授業実践をしてきました。今年度も引き続き『対話』を大事にして、考えが深まっていくような授業を目指して取り組んでいます。

学校の教育目標

『かがやけ坂本の子』～かしこく・やさしく・たくましく～

★願い

坂本小学校の『あいさつ』

あいさつのいい学校…

周りの人とふれ合う心

いさおのいる学校…

勢いのある活動・授業

うたごえのある学校…

聞く人の心を動かす歌声

え顔のある学校…

充実感・満足感のある笑顔

学校のたからもの①
かがやきキラリ
(良いこと見つけ)

校長室前の掲示板には、子どもたちが見つけた仲間の良いところ(行動・言動)が、いっぱい掲示してあります。校長室前に小さな紙が置いてあり、それを子どもたちが自由に書いて、箱に入れるようになっていきます。人間は誰しも良いところを持っています。そして、誰しも他人から良いところを認められると嬉しく思い、元気がなったり、自分自身に自信がつき、次への活力になったりもします。そういった意味で、本校の校長がこの四月から始めたのです。夏休みにも呼びかけ、実施をしたり、運動会でも保護者や地域に呼びかけ、運動会での良い姿を紙に書いていただいたりしました。子どもだけでなく、範囲を広げました。さらに、五、六年は、「あつたかい言葉かけ運動」に参加して他人からもらって嬉しい言葉を書いて全校に広めたり、人権週間では、ひとり一人がなかよし宣言をしたりしました。本校では、この様にかがやきキラリを始めとして、いろんな活動で人の良いところを見つけ、価値づけ、広めてき

学校のたからもの② 心があたたかくなる あいさつ

児童会活動も活発です。今年度は特に、あいさつに重点をおいて取り組んでいます。

八百二十九人という大きな学校なので、みんなが仲良くなるということは難しいことです。逆に言うと、多くの仲間と心と心のキャッチボールが可能ということなんです。そこに目を付けて、あいさつを大事にしてあたたかい学校を作っていくと全校に呼びかけました。しかし、最初はなかなかいいあいさつは出来ませんでした。そこで、児童会代表委員は、全校集会でも二度呼びかけ、朝だけでなく休み時間を使って、廊下やいろんな場所であいさつ運動を行いました。ま



▲かがやきキラリ募箱
あたたかい心でいっぱいの箱



▲かがやきキラリ掲示
良い姿がみんなの目に触れます



▲あいさつ運動 全校にあいさつの良さを話しています

た、気持ちのいいあいさつをする子を昼の放送で紹介しました。今は、以前と違って廊下を歩いていても気持ちのいいあいさつが飛び交っています。この様に、自分達の手で自分達の生活を質の高いものにしていく活動が出来ています。

としていきます。連携して行っていることを紹介します。

① 中学三年生の研修旅行先は東北です。今年の活動の一つとして、被災地の仮設住宅へお米を届けました。そこで、米集めを中学校だけではなく、小学校にも協力を呼びかけてくれました。小学生は、その趣旨を理解し協力しました。児童会の代表が玄関に立ち、お米を集めました。その結果、小学校だけで千六百合のお米が集まりました。

② 幼小中で約千三百五十人います。警報が出た場合を想定した時には、隣接する幼稚園、小学校、中学校の保護者が同時に迎えに来ることになります。そこで混雑が予想されましたが、合同で引き渡し訓練を行いました。徒歩での引き渡しを優先して、車での迎えは地区によって時間差をつ

学校のたからもの④ 命の教育の推進

本校では昭和五十八年に校舎から転落して命を落とす事故がありました。また市内では八年前に大切な命を失う事件がありました。どちらの死も決して無駄にしないように、

命の教育を大事にしています。自分の命は自分で守ることを出口として、全校体制や各学年で取り組んでいます。助産師さんや動物病院の先生を招いて、いろんな角度から命の大切さを学ぶようにしています。その一つとして今年度、六年生の薬物乱用防止教室では、学校薬剤師さんを招いて、講話していただきました。その中で薬物を勧められたときの断り方を担任による寸劇を通して、子どもたちに訴えました。笑いが起きた寸劇でしたが、授業の感想には「この命は地球より重いということを感じ取っている子どもたちが多くいました。」



▲米の呼びかけ 東北にお米を



▲引き渡し訓練 幼小中約1,350人合同の訓練



▲命の教育 赤ちゃんを抱くのは難しい



▲薬物乱用防止教室 外部講師を呼んでの授業



【たかやましりつ にゅうかわちゅうがっこう】

高山市立丹生川中学校

●住所 〒506-2123 高山市丹生川町町方1500番地
●TEL (0577)78-1023
●FAX (0577)78-1948
●メール nyukawachu@edu.city.takayama.gifu.jp
●生徒数 155名(H26.12.1現在)



校歌



丹生川中学校校歌

作詞 平光 善久
作曲 兼田 敏

一、そそり立つ 乗鞍岳の
山の香のみなぎるところ
大なる恵みを受けて
たくましく伸びゆくいのち
清く明るくわれらは育つ
丹生川 丹生川中学校

二、水清き 小八賀川と
荒城川 ふたつの流れ
さかのぼる 古き歴史を
受け継ぎて 未来を目指す
つねにきびしくわれらは学ぶ
丹生川 丹生川中学校

三、さわやかな 御崎が丘に
肩あげて見上げる彼方
湧き上がる 雲の光に
豊かなる 理想をかかげ
強く正しくわれらは進む
丹生川 丹生川中学校



▲校庭横の水芭蕉

学校の教育目標 「自ら学び考え 正しく判断し 共に行動する」



▲学校より望む笠ヶ岳

ふるさと丹生川は、北アルプスにつながる雄大な乗鞍岳の裾野に位置する豊かな自然に恵まれた地域です。学校からは、笠ヶ岳の美しい勇姿を望むことができ、飛騨大鍾乳洞ではサンゴなどの化石も多数産出し、複雑な地殻変動を経て現在に至っています。また、多くの遺跡が出土し、太古の時代より人の営みがありました。両面宿禰の像に代表される円空仏も多数保存されており、文化豊かな営みが受け継がれています。産業面では、岐阜県で唯一農道空港「飛騨エアパーク」があり、夏場には、高冷地野菜が首都圏へ空輸されていると共に、グライダーの滑空場として活用され、天気の良い日には、グライダーが大空を舞っています。また、学校の裏山は、尾崎城址公園となっており、たまに、二ホンカモシカも授業参観しています。

ふるさとの自然や風土と沿革

ます。エスコート横の湿原では、春になると水芭蕉が可憐に花を咲かせます。こんな自然や文化が豊かな風土の中、本校は、昭和四十六年に丹生川・白井・旗鈴・三之瀬・折敷地・国見の六つの分教室が統合し、新丹生川中学校として現在に至っています。

学校の教育目標と合い言葉

丹生川中学校の教育目標は、「自ら学び考え 正しく判断し共に行動する」です。中学校の三年間は、将来の自分の進路の方向付けをする、人生の中でもとても大切な時期です。そこで、「夢を切り拓く」を合い言葉に、重点的な活動を行っています。授業での学力向上の取り組み、仲間と共に歯を食いしばってがんばる部活動、願いをもつ生徒が主体的に運営する生徒会活動等様々な活動を通して、自分の「夢」を育んでいきます。同時に、困難にも耐えながら将来の自分の「夢」の実現へと導く、しなやかで、強い力を蓄えていくことも大切に行っています。

生徒会のやる気

生徒会では、「自活」をたからものとしてずっと受け継いでいます。「自活」とは、平成六年度の生徒会執行部が願いを言葉に集約したもので、自らや学校生活を厳しく見つめる、そして自分たちの力で見通しを持って力強く生き生きと活動するという願いが込められています。その具現のため、

学校のたからもの1



▲生徒会「自活」と四本柱

ふるさとと密着した学習活動

学校のたからもの2

中部山岳国立公園の南端に位置する北アルプス乗鞍岳の山麓には、「五色ヶ原」と呼ばれる、これまでほとんど手つかずの希少な自然が豊富に残る広大な森林地帯が広がっています。ここには勇壮な瀑布や湖沼がいくつも分布し、一年生は、一日かけて、五色ヶ原研修として自然の中に浸ります。丹生川にこんな素敵なところがあったのかと、ふるさと再発見の場にもなりました。

二年生は、キャリア教育の二環として、丹生川地域や高山市内の各事業所のご協力により、職場体験学習を実施しています。

必ず反応する授業姿勢

学校のたからもの4

どの授業でも、どの学年でも誰かが発言すると、「なるほど」「へー」「あそつが」「見えわつて」のように見えますが、それぞれが話を聞いて、必ず反応している様子です。丹生川中学校では、これを「五十首反応」と呼んでいます。各クラス・学年で反応スタイルを考え、授業をはじめ、話し合い活動で実践しています。「あ・あ・あそつが」「い・い・いね」「う・う・うん」生徒会では、特に、誰かが発表した後の「ミニメッセージ」を強化したいという願いを持ち、発言を聞いたら必ず誰もが何らかの反応をする取り組みを推進しています。このことが生徒同士の学び合いを高め、学力向上につながるようこれからも質を高めていきます。



▲合唱祭 全校合唱



▲友だちの発言を真剣に聞く生徒

心と心をつなぐ「ご苦労様」

学校のたからもの5

「おはようございます。それに加えて、生徒も先生も「ご苦労様です。」「ご苦労様。」それが丹生川中学校の朝の挨拶です。

「ご苦労様。」というのは、もともと労をねぎらう言葉であり、正しい使い方からすれば、「お疲れ様です。」と使い分けなければいけないところですが、いつの頃からなのかわかりませんが、丹生川中の自然な挨拶の言葉になりました。挨拶だけでなく、ほんわかとして、飾り気のないお互いの言葉かけをこれからも大切にしていきたいと思っています。



▲生徒会生活委員会の挨拶運動

わが子のあゆみ

2015.3 No.437 春風号

表紙 関ヶ原町立今須小中学校

学校のたからもの 1
岐阜市立日野小学校／揖斐川町立揖斐小学校／中津川市立坂本小学校／高山市立丹生川中学校

わが家の宝物 養老町立日吉小学校PTA会長 日比野民智 9

特集 東日本大震災被災地中学校との交流 11
長屋慶大（長良中） 太田あゆみ（苗木中） 可知 岳（苗木中） 加藤朱里（苗木中） 小畑静菜（苗木中）
井上富貴（岐北中） 松井咲保（岐北中） 佐藤真央（真正中） 此島彩乃（真正中） 後藤篤広（真正中）
吉村太希（真正中） 土田純平（那加中） 田中湧真（那加中）

家庭教育応援団！⑩ 恵那市立武並小学校
恵那市立恵那北小学校 21

シリーズ「療育」②⑩ 岐阜県立海津特別支援学校 23

お弁当の日 瑞穂市立穂積北中学校PTA 25

わが家のルール 27
郡上市立大和北小学校PTA副会長 松永邦宏
多治見市立南姫中学校PTA会長 奥村孝宏

保健室ノート 関市立武芸小学校養護教諭 山田美由紀 29

私の先生⑩ 高山市立日枝中学校 教頭 川原 毅 31

子育て半生記 本巣市立真正中学校PTA会長 長野陸雄 33

ボランティアニュース [vol.4] 35

高山市立丹生川小学校PTA
高山市立朝日小学校PTA
高山市立本郷小学校PTA
高山市立荏川中学校PTA

私が出会った1冊の本【続21】 37
岐阜大学教育学部附属校PTA副会長 青山知美
高山市立久々野中学校副会長 古本恵子

子の思い・親の願い・教育の窓 39
子の思い

高山市立宮小学校3年 岩西はるか
郡上市立大和南小学校5年 白田和哉
土岐市立駄知中学校3年 加藤真韻

親の願い
垂井町立合原小学校PTA会長 兒玉 勝
本巣市立本巣中学校PTA会計 竹中さゆり

教育の窓
可児市立今渡南小学校教頭 石田和子
岐阜市立岐阜中央中学校教頭 高橋 誠

親子ではてな 44
インフォメーション 45
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 46
桑の木豆の中華煮

ふるさとの伝承
高山市立三枝小学校 47

きらり!キッズ!
土岐市立土岐津小学校 49

夢中!熱中!我がが部活
七宗町立神測中学校 51

私たちのPTA
岐阜市立明郷小学校 53



今年、小学校で持久走大会があり、兄弟3人そろって一位になりました。元氣いっぱいの子どもたちです。

わが家の宝物

養老町立日吉小学校 PTA会長
日比野 民智



わが家の団らんする部屋の時計。



2010年12月 長女が3才になり 指で3をさしています。二男は、ひょうきんで、いつもニコニコしています。



わが家の掲示板
京都某老師人生訓より「人生老いてから」昨年亡くなった義理の祖母の生きざまそのもの、それ以降、宝にしています。

私は、子宝に恵まれ妻と四人の子どもと祖父と祖母の八人の家族です。
一番の宝物は『家族』です。普段の生活では感じられませんが、私たちが知らない所で、子どもたちはたくましく成長し続けています。
結婚十年目を迎えた時に、一本のDVDビデオを作成しました。それは、私たち夫婦が結婚した時から現在に至るまでの写真です。
きっかけは、十年目を迎えた妻の誕生日プレゼントにしようと、時間を見つけないが、子どもたちの笑顔いっぱいの写真を集め編集しました。編集したビデオは、思い出の音楽とともに仕上げ、誕生日の当日、家族みんなで上映しました。
子どもたちも昔の姿を見つめながら、ずっと画面をみて微笑んでいました。目に涙を浮かべた妻は一言、『ありがとう。とても素晴らしいプレゼントだよ。』と言ってくれました。わずか数十分の映像でしたが、きつと記憶がよみがえったのでしょうか。
年を重ねるたびに記憶は薄れていきますが、映像を見ることによって心に刻まれた記憶はよみがえるものです。
家族を例えると、私は時計だと思っています。『家族という名の時計』は、一つの部品が足りなければ絶対まわりません。それぞれの役割は異なりますが、同じ時間を使って日々生活しています。
わが家は、そんな時間を大切にしながら、あたたかい家庭であり続け、これからも元氣いっばいな家族でありたいと願っています。そして、子どもたちと一緒に人間成長に努めたいと、私は考えます。

東日本大震災被災地中学校との交流

岐阜県PTA連合会は、昨年八月一日と一九日にかけて、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市立門脇中学校を訪ね、被災地中学校との交流事業を行い、県内五つの中学校十三名の生徒が門脇中学校の生徒たちと交流しました。

この事業を実施するにあたり、随行引率者五名を含む全行程の費用（九六万七千余円）は、会員の皆様から寄せられた善意の募金「被災支援基金」が活用されました。ここに、参加した中学生からの報告を紹介します。

人を助けるために

岐阜市立長良中学校
平成二十六年前期生徒会長

三年 長屋 慶大

私は、震災発生時小学五年生だった。教室でクラスメイトと話をしていた時に、小さな揺れを感じた。テレビを点けると、ヘルメットをかぶったキャスターが、岐阜から遠く離れた東北の、衝撃的な様子を伝えていた。

あの震災から四年経ったこの夏、私は初めて被災地に赴くことになった。あまり東北の地震のニュースを見かけなくなり、東

北はもう完全に復興を遂げたものだと思っていた。だからこの派遣の話を聞いたとき、なぜ今更、東北に行く必要があるのか疑問であった。しかし、長良中学校の生徒会長として、長良地域の防災の役に立ちたいと思い、参加を希望した。

私は東北で、第一に、東北の震災はまだ終わっていないのだと思った。仙台市内のあちらこちらに、「頑張ろう、東北！」の標語が見られたからだ。今でも、東北の人々の心の中では、「震災は終わっていない」のだと伝わった。また、地震とはどれだけの

年月が過ぎても心の中に残り続けるものだと思った。私たちの住む街に、できるだけ東北の生きた声を届ける責任を感じ、改めて気が引き締まった瞬間だった。

バスに乗り、仙台から石巻へと向かった。窓の外からは、道に沿ってまっすぐ流れる北上川や、その周り一帯に広がる茅の草原、生き生きとした緑色の山々の景色が飛び込んできた。

「きれいな自然だなあ。」

と、カメラを手に写真を撮っていた私だったが、バスの運転手さんが、私に思いもよらぬことを言った。

目の当たりにした人が、どうやってこの四年を過ごしたのかを知りたかった。私ならきつと立ち直れなかったと思う。だから、石巻市内の中学生の方に聞いた。あの甚大な被害を目の当たりにした方々だ。

「どうやって震災のショックから立ち直ったのですか。」

「まだショックから完全に立ち直れたわけではないと思います。でも、周りの人と話すことで、楽になることは出来ました。」

生徒会長が答えた。この言葉が、私が東北で過ごした中で最も記憶している言葉である。

私は今回の体験を通して、災害から本当の意味で復興する為には、「人と人とのつながり」が必要不可欠であると思った。どんなに災害から月日がたち、街にビルが並ぶようになって、辛かったことは忘れられない。しかし、どれだけ大切なものを奪われたとしても、そのことを打ち明けられる人がいれば、少しでも楽になれる。

このように感じた上で、私は地域や学校の防災訓練やイベントに積極的に参加するべきだと

思った。それらは、東北の時のような圧倒的な自然を前にすれば、ほとんど意味がないかもしれない。しかし、地域が支え合い、励まし合う関係をつくるきっかけにすることができると。災害が起きてからでは遅いのだ。だから、地域や学校の防災訓練に、もっとたくさんの方が参加すべきだと思う。命が助かるだけの対策だけでなく、命を助けたい続けるための方策を講じていかなければならない。人を助けるには人が必要なのである。

中学生の役割

中津川市立苗木中学校
平成二十六年前期生徒会長

三年 太田あゆみ

私が岐阜県PTA連合会主催の宮城県震災視察で学んだことは、三つあります。一つ目は、中学生の活躍です。震災当時、避難所にいた中学生は、避難所の受付、清掃活動、避難所に届いた物資の運搬、避難所にいるお年寄りへの声かけなどの心のケアな

ど、いくつもの事を自主的に行っていたそうです。一日目の説明でもお話しの中にありましたが、「中学生は非常災害時でも主体的に行動することが大切だ。」ということを学びました。普段から心がけていないと主体的には行動できないとも思いました。

二つ目は、東日本大震災で起こった実際にあった避難所の課題です。一日目の説明から、避難所には短期間で処理する課題と長期間かかる課題があることを学びました。最初の短期間で解決しなければならぬ課題では、食料や水などの生活に欠かせない物資の調達方法、今後の見通しを持つための災害支援情報

の入手、季節条件から考えられる対応（当時は冬季なので暖房）の必要性等です。長期間で解決しなければならぬ課題では、たくさんの方が出入りする避難所の管理や運営する人、安心して過ごせるための避難所での決まりや約束、限られた物資の活用のための共同生活でのモラルの徹底などです。また、他の避難所と連携が取れず正確な情報が入手できないために、あ

る避難所では人数が多くて物資が足りず、ある避難所では人数が少なく物資が多すぎた、ということも起こってしまったそうです。避難所での生活の難しさを感じました。

三つ目は、東日本大震災が起こって、その時必要とした物資です。必要だったものは、水、食料、薬品、情報入手手段、衣服、日用品、季節の変化に応じた必要品です。季節の変化に応じた必要品では、震災当時冬だったので毛布やカイロ、灯油が必要だっ



たそうです。情報入手手段では、電池式ラジオが大変役だったそうです。

私が視察を通して、皆さんに伝えたいことは幾つかあります。

一つは、日頃から家族と話し合って避難場所を決めておくこと。もう一つは、地域の活動に積極的に関わり地域社会の一人としての意識を持つことで中学生でも役立てること。最後の一つは、ボランティア活動に積極的に参加することです。こうした内容は、一日目の説明の中や被災地の中学生が話していたことです。また、「この震災を忘れず、たくさんの人に伝えていってほしい。」とも言われていました。この中津川もそして岐阜県でも、いつ地震が起きるかは分かりません。一度、家族と話し合ってみてはどうでしょう。

天災は逃れられない

中津川市立苗木中学校
平成二十六年前期生徒会副会長

三年 可知 岳

僕は、今回の研修を通して、「防ぐ」ことよりも、「地震を受け入れ共存する」ことが大切だということを感じました。

石巻市に実際行ってみて、本当にすごい被害で、三年たった今でも被害を受けたところはほとんど変わっていませんでした。また、死者数もこの地域だけで



二、〇三八人の方が亡くなっていました。しかし、これは津波への対策を決して怠ったわけではありません。実際に海岸沿いには二、三mの防波堤もありました。それでもこれほどの被害があつてしまったのは、

「ここまでは来ないだろう」とか

「今までになかったから」

などという理由から高台まで逃げなかったり、家に戻ったりした人がいたからです。津波は、ここまで到達しないのが一番ですが天災は避けられません。また、いつ来るかわからない天災に対して防ぐための高い防波堤などをつくることはできません。だから、僕は時間がかかり不確実な「防ぐ」ことより「地震を受け入れ共存する」ことが大切だと思いました。

また、これは岐阜県でも例外ではありません。岐阜県は、内陸に位置する県で津波の心配はありませんが、土砂崩れや液状化の恐れがあります。この場合も土砂崩れ対策にすべての山に金属ネットをかけることはできませんし、液状化対策にすべて

の地域にセメントを流し込むこともできません。地震に対しては「受け入れ共存する」ことが大切だということを改めて言うことができます。

そのために、私はひとりひとりが災害に対して、協力することが必要だと考えます。東日本大震災では、中学校の生徒が協力して逃げ遅れたお年寄りを助けたという話もあります。また、小学校の児童が協力し合つて先生がいない中、高台まで逃げたという話もありました。このようなことは日頃からの訓練と地域との関係があつたからこそだと考えられます。日頃から地域との交流を深め、いざという時に助け合える環境を作っていくことこそ「災害と共存する」ことにつながると思います。

この研修で学んだ、日頃から周りの人と協力し震災時には「地震を受け入れ」て、地域の方と共に活動するということを常に考え、今後に生かしていきたいです。

忘れないで、東北を！

中津川市立苗木中学校
平成二十六年前期生徒会書記

三年 加藤 朱里

私は、今回、人が持っている「強さ」「辛いことを乗り越えてきた」「人間の強さ」を学ぼうと思い被災地中学校の交流事業に参加しました。

被災地である石巻市立門脇中学校で、私たちと同じ中学生の生徒と交流しました。内容は、被災当時の事や防災活動、震災



支援活動などについてです。交流して驚いたことは、宮城県の中学生は震災当時からその後も、学校内だけでなく普段から地域という校外の広い範囲の支援場所を見つけ、さまざまなボランティア活動につながって町をより良くしていこうと努力していたことです。被災当時には避難所の受付、物資の運搬等を行い、地域では清掃活動を続けているそうです。また、お年寄りの施設へ行った時は、出会ったお年寄りには元気が出るように声をかけ、不安を持つ小さい子どもを元気づけるために保育園に行くといったボランティア活動で、中学生が自ら考えて行っているそうです。地域のためを思い行動している姿や防災意識が高い姿からは、同じ中学生なのに大人のようにみえました。きっとこれは、震災を経験してきたからこそ、遅しく見えたのだと思います。

最近では、被災地復興の様子の報道もだんだん少なくなっています。実際には、まだまだ復興し切れていない場所がたくさんあります。

石巻市立門脇中学校の生徒さんは、「これからも、完全復興にみんなで一つになってできる限りのことをやっていきたい。地域社会人の一人としての意識を持つことを大切にしたい。」と言っていました。だから、私は何かあった時に地域の人たちと協力、助け合える関係を築けるように普段から、まずは明るい挨拶、そして地域の行事や防災訓練などに積極的に参加することを心がけていきたいと思っています。もし困っている人がいたら見て見ぬふりをして通り過ぎるのではなく、その時自分にできることをするなど地域の人たちとの関わりを大切にしていきたいです。

最後に、同じ日本人として「この悲劇を絶対に忘れてはいけません。」と、私はそう思います。皆さんもどうかこの先もずっと東日本大震災の事を忘れないでほしいと思います。そして、私も何か大変な出来事に遭ったとしても強く生きていこうと思います。

家族の絆

中津川市立苗木中学校
平成二十六年前期生徒会書記

三年 小畑 静菜

「強さ」、私は今回の交流事業を通してこの言葉を改めて学びました。

被災地では、私たちと同じ中学生、バスの運転手さん、ボランティアの方の震災の当時の話など多くの関係者のお話を聞きました。今の私たちの生活からするととても考えられない、



そして実際に起きたこととは思えない、それでも実際に起きたお話を聞いてきました。その中でも、お話を聞いた誰もが本当にあったんだと実際に感じられるボランティア活動した方のお話がありました。

地震が起きた二〇一一年三月十一日、今から約三年半前の話です。地震と同時に津波が襲ってきた時、ある八十歳のお婆さんと十六歳のお孫さんが家の中に取残されてしまいました。家の二階だったことも有り津波の直接の被害はあまりなかったそうです。しかし、東北の三月は寒く雪も降っていました。十六歳のお孫さんは、自分の命を守るよりもお婆さんが無事助かるようにと、クローゼットにあった毛布など暖かくなるものを自分ではなく、お婆さんに掛けたりしました。食料もあまりなく暖房も取れないとても寒い二階で、お孫さんとお婆さんはただひたすら救助を待ちました。数日たつてやっと救助が来たそうです。生き延びるために堪え忍んだお陰で、無事にお孫さんとお婆さんも助かりました。お婆さんは

お孫さんのお陰もあり体に大きな負担などはありませんでした。お孫さんは、お婆さんを気遣ったために体が動かなく熱がある状態だったそうです。しかし、今ではお孫さんは元気になり大学に入学し、お婆さんはその入学式をお祝いしたそうです。

私は、このお話を聞いた時、地震の怖さを改めて知ることができました。また、お婆さんに対するお孫さんの「強さ」つまり「思いの強さ」を感じました。自分は我慢しても身近な人のために尽くすことのできる「強さ」に、たくさん感動を覚ええました。他にも「強さ」を感じる出来事やお話がありました。このようなお話を聞いたり見たりして強さについていろいろ考えてみました。人の「強さ」というものは、実際に見て感じられ実際につくりだすことのできるすごいものだと感じました。

※学校での取り組み
中津川市立苗木中学校では、「被災地中学校との交流事業」報告会を開きました。全校生徒と保護者の希望者の前で四名がお話した内容です。また、報告

会に続いて、東日本大震災当時から宮城県石巻市に災害支援ボランティアとして活動してきた中津川防災市民会議の代表の方に当時の様子や中学生でもできる災害支援ボランティア活動についてお話を聞いて学習しました。

地域の輪を広げる

岐阜市立岐北中学校
生徒会長

三年 井上 富貴

下の写真は、私が東北で撮った写真の中で一番のお気に入りのものです。この写真は、宮城県石巻市にある、大川小学校で撮りました。大川小学校では、震災の影響で、児童の約七割が亡くなったそうです。そして、今回私たちが訪れた時も、津波が来た三時三十六分のところで時計の針が止まっていたり、スピーカーが津波の力で変形したりしていました。また、丈夫な鉄筋コンクリートの壁が突き破られ、外からでも教室の中の様子が見えるほどでした。また、バスから



見た石巻の町の様子は、仮設住宅などもあちこちで見られ、壊れた堤防や建物などを直すための材料を運ぶトラックもたくさん走っていて、震災の面影がまだたくさん残っていました。しかし、こんな状態の中でも前を向き輝くものがありました。それが、このひまわりです。このひまわりも、震災があったとき、津波の影響で塩水をかぶってしまった、一度枯れてしまったそうです。しかし、それを乗り越え、今はこんなにも立派に育っています。

このような話を聞いて、東北

の人たちは今も前を向いてがんばっているのだと思いました。

そして今回、東北へ行ってみて、行く前に想像していたより復興がとても早く驚きました。しかし、まだ再生していない部分もたくさんあります。震災から三年たった今、あのときの辛い記憶は忘れ去られようとしています。でも、震災を受けていない私達も、震災があったことを忘れず、今回の震災から多くの事を学び、それを実践する事が、私たちのやるべき事じゃないのかなと思います。

そして、今回実際に震災の被害にあった門脇中学校の生徒たちと交流することができました。今まで、東日本大震災の被害を受けた方たちのお話しは何度か聞いた事があるけど、今回は同じ中学生の子たちと交流をすることで、今までとはまた違う話を聞く事ができました。

今回交流をした、門脇中学校の生徒たちは当時、小学五年生でした。しかし、そのとき見たのは人々の手助けをする中学生の姿でした。避難所では、中学生が地域のリーダーとして、自

主的に働き、支援物資を配ったり、避難所の受付をしたりして、地域の役に立っていたそうです。その他にも、自分たちで考え自主的に、小学生の子たちに本の読み聞かせをしたり合唱をしたりしていたそうです。

自分も家を失ったり、もしかしたら家族や友達をなくしたりしているかもしれないのに、そんな中でも地域の役に立とうと働く中学生はすごいと思いました。

しかし、これも、他人事ではないと思います。私たちが住んでいる、岐阜県でもいつ地震がやってくるかわかりません。それに、岐北中のすぐ裏は御望山があって、大雨とかが降ったら、いつ崩れてくるかわかりません。だから、私たちの中学校でもいざというときの準備をしないといけないと思います。いつも先生が言われているように、中学生は、地域のリーダーとして地域のために働かなくてはいいけません。そのためには、日頃から地域の人と関わっていく事が大切だと思います。

そこで、私が今生徒会長として、

て、一番こだわっている事は、「あいさつ」です。あいさつだったら、簡単に出来るし、地域の人と関わるためには無くてはならないものだと思います。そのため、私たち生徒会は、朝のあいさつ運動をしたり、小学校へあいさつ活動に行ったりして地域全体にあいさつが広げられるようにがんばっています。

また、私たちの学校では、小中合同地域活動というものがあって、小学生、中学生、地域の人たち皆で掃除や防災訓練などをし、地域の絆を深めています。そして、またいつか、今回交流した門脇中学校の生徒さんを岐北中にも呼んで、生の声をみんなにも届けたいと思います。

今回は本当に貴重な経験をすることが出来ました。ありがとうございます。

中学生の役割とは

岐阜市立岐北中学校

三年 松井 咲保

私は、今年度の夏休みを利用して、東日本大震災の被災地である宮城県石巻市を訪れ、被災地中学校との交流事業に参加しました。

私が訪れた石巻市立門脇中学校は、震災によって壊滅的な被害を受けた門脇小学校が間借りしていました。震災前よりも狭くなってしまった学び舎で、それでも一生懸命に生きる中学生の貴重なお話を聞くことができました。

大震災が起きたとき、津波によって流される人の姿を実際に見たという話を聞き、私は背筋がぞくつとしました。自分の命が危ない中で、人が流されているところを見てしまったら、私はきつと恐怖でいっぱいになり、避難しようとしても動けなくなってしまうんじゃないかと思っています。実際に、そのようにして逃げ遅れて亡くなってしまった方、自分よりも家族や友人などを心配して震災の犠牲になっ

た方がいらつしやったと思うと、私はとてもいたたまれない気持ちになりました。

避難所では、小さい子どもから優先的に物資が配られたそうです。震災後、全国から救援物資が被災地に届きましたが、断水のため各地の学校では給食ができず、避難所ではトイレが使えず、とても困ったということを知りました。

そんな中、避難所で心が崩れそうになる大人を支え、ボランティアの方と一緒に避難所を支えたのは、私より先輩である当時中学生の方々だったということを知りました。彼ら彼女らは、トイレで使うための水をプールから運んだり、お年寄りの方の話し相手になったり、様々な場面で活躍したということを知り、私はとても驚きました。震災後の各地の避難所で、中学生の力は被災した方々にとってとても支えになったそうです。

もし今、あの時と同じような大震災が起こり、避難所での生活を余儀なくされたら、私はあの時の中学生のように避難所の

力になれるか、とても不安です。

でも、生き残った者同士、支えあって生きていくために、できないかもしれないとかじゃなくて、自分や周りの大切な人のために、その時自分にできることを精一杯やって、地域に貢献できるようにしたいと思いました。地域のリーダーは、長生きしているお年寄りの方でも、消防団で活躍しているお父さんでもありません。これからの未来を拓いていく、私たち中学生なのです。

たくさんのことを学び、岐阜に帰ってから、私は学校の生徒集会の場で、被災地中学校との交流事業に参加したということ、被災地で見たこと、聞いたこと、そこから学んだことを全校生徒の前で発表しました。私が一番伝えたかったのは、私たちが地域のリーダーであり、地域を支えていくんだということです。このことがどれだけ伝わったかは分かりませんが、みんなの意識が少しでも変化していたら、きっと被災地の方も嬉しいと思います。

発表後、学校では防災学習として土のう作りやAED講習が

ありました。今までの私だったら面倒くさいなあと思っていたと思います。けれど今回はいつもより真剣に臨むことができた。

今回の体験を受けて、少しずつ地域のリーダーであるという自覚を持ちはじめているのだと思います。今後は私だけでなく、他の生徒にも地域のリーダーであるという自覚を持ってもらわなければならないと思います。そのために、もっとみんなに防災の大切さを伝えていきたいです。また、地域内でいざというときのために助け合えるようなつながりをつくっていきけるような活動を考えていきたいし、今回の交流事業に参加することができなかった中学校の生徒にも、今回学んだことをたくさん伝えていきたいと思います。今回の交流事業に参加したメンバーが主体となり、そこから県内の中学生にはたらきかけ、活動の輪を作っていくことが、今私たち中学生にとってできることだと思います。

被災地交流事業から学んだこと

本巣市立真正中学校
三年 佐藤 真央

東日本大震災から三年。草だけが伸びた住宅地、いろいろな所に積まれた土砂、大きく曲がった建物など被災地を見ていると、自分が思っていた以上に被害が大きく、同じ日本の中で起きたことなんだと急に身近に感じられました。そして災害への意識・対策について改めて考えさせられました。真正中学校では「被災地交流事業の報告」として感



じたことを、被災地の写真と共にプレゼンにまとめ全校の場で発表しました。生徒や先生方と共に防災について考えを深めることができ、訓練の大切さにも気づくことができました。

後日行われた「命を守る訓練」では「もしも校内放送が使えなかったら」という想定で、今までは違った条件の中で行いましたが、全員が落ち着いて真剣に取り組みました。これからどんな状況にも対応できるように、交流で学んだことを生かしていきたいです。

本巣市立真正中学校

三年 此島 彩乃

私は今回の交流事業を通して、震災が東北地方に与えた影響の大きさを改めて感じました。今、TVなどで被災地の現状を知る機会は以前と比べて少なくなり、私たちの記憶から震災の事は消えつつあります。しかし、被災地にはまだ多くの仮設住宅が建ち、震災前の暮らしができていない方が多くみえるというのが現状です。これからの復興には



活動としてつなげていってほしいです。

本巣市立真正中学校

三年 後藤 篤広

僕がこの交流事業で感じたことは二つあります。一つ目は「復興は遅れている」という事です。宮城県石巻市に入ると、いきなり仮設住宅が目に入り、さらに道を進むと壊れかけの建物や途中からなくなっている橋が目に見え、飛び込んできて、まだまだ「被災地」であると実感しました。

二つ目は「命の大切さ」です。大川小学校の慰霊碑を見たとき、そこには自分たちよりも小さな子どもたちの名前と年齢が刻まれていました。それを見たとき、心が打ちのめされ、ただただ手を合わせることでしかできませんでした。今、自分が生きていることを幸せに思い、自分の命、他人の命を大切にしなければいけないと強く感じました。

今後僕が行っていかなければならない事は、学んだことを伝えるだけでなく行動に移すことです。真正中学校では、来年度

からの「命の大切さを学ぶ」学習で被災者の言葉を取り入れ、東日本大震災から学んだ教訓を生かしていきたいです。

本巣市立真正中学校

三年 吉村 太希

僕は「被災地交流」を通して貴重な経験をする事ができました。被災した宮城県門脇中学校の生徒の皆さんとの交流では、自分自身が被災者で家族の行方が分からないという辛い立場にありながら、それでも石巻市の復興を願って前向きに語ろうとする強い生き方に感動させられました。

また「具体的に、何を行動に移せばいいですか。」との質問に対し「避難訓練に真剣に取り組んでください。私たちは避難訓練をしつかりやっていたけれど、もっとこうすれば被害は少なかった。」と答えてくれたことです。

僕たちが住んでいる本巣市でもいつ災害が起こるか分かりません。もし、起こったとしても僕たちの防災意識が高ければ被

害は少なくなるはずですが。被災した仲間の思いに応えるためにも、今の僕にできることを精一杯していきたいです。あの三月十一日のことを忘れず、防災について見つめ直し、自分たちの防災を自分たちの地域で活かしていきたいです。

被災地中学校との交流事業を通して

各務原市立那加中学校

三年 土田 純平

今年の夏休み私たちは、岐阜県中学生の代表として、被災地中学校との交流事業に参加しました。

私自身、被災地を見学するのは今回が初めてで、最初その様子を見たとき、震災の規模の大きさ、そのすさまじさに驚かされました。それだけでなく、いくつか見学した場所からは当時の人の思いを感じることができ、切なさでいっぱいでした。

今回の目的は突然起こる災害に対して、どのくらいの防災対策ができていくかというもので、

防災の大切さについて、同じ岐阜県のはかの中学校の生徒も含めて話し合いをしました。

交流の中で一番感じたことは、東日本大震災というあれほど大きな地震があったのにも関わらず、自分の中学校も含め、全体的に防災に対する意識がとても低いということです。

実際に交流した中学校も、震災が起るまで、津波の訓練をしていたものの、十分な訓練ができていなかったため、震災後もう一度訓練に力を入れ直したそうです。

やはり、実際に震災の恐ろしさを知っていなければ、十分な訓練をし、災害に備えることはできないのでしょうか。今回の交流を通して、もし自分の身の回りで大規模な災害が起きたらと考ええると、確実な行動ができるかどうかとても不安になりました。防災意識の低さが身にしみて分かりました。

この交流事業で、見学だけでなく実際に震災の被害を受けた人の話を聞き、震災が起きたとき一番必要とされるのが情報ということを知りました。

バスガイドさんにこんな言葉を教えてもらいました。

「津波でんでんこ」

この言葉には、津波が視認できる距離に来たら終わり。津波が来るとわかったら、まず逃げることを考える。お互いに助け合い、自分の可能な限り必死で逃げろ、と言う意味が込められています。津波が来たときに、真っ先に自分の命を優先させることが大切だとは言え、人のことを考えると迷ってしまうからこそ、この言葉があるのだなと思いました。

石巻市門脇中学校では、教頭



私たちが住んでいる岐阜県では津波による被害はほとんどありませんが、昼間家族がバラバラの状態では震災が起ったとき家族同士で連絡を取ることができないため、集合場所を知っていなければなりません。もちろん震災の状況を知るのは困難になります。それを防ぐためには、

事前に集合場所の確認や、ラジオなどの準備をしておく必要があります。それを私たちができているかというと、あやふやで、防災意識が低い状況です。災害が起きてから気づいていては遅いです。事前の対策の大切さを知ることができてよかったです。

今回の経験をしたこと、自分自身の防災意識を高めることができました。防災に対していきなり大きなことに取り組もうとしても、なかなか難しいと思います。しかし私たちにもできることがあると思います。

それは、今回の交流事業で知った震災の恐ろしさ、そして防災意識の大切さを多くの人に伝えることです。

いきなり防災意識を高めようと言われても、イメージをつかむ

先生と生徒の皆さんの話を聞きました。そこでは、実際に地震が起きたときやその後の話を詳しく聞くことができました。

地震が起きたとき、グラウンドや体育館にどんな様子で集まったのか、避難所はどんな感じだったのか、震災後の避難訓練はどのように変わったのか、といった内容でした。その中でも、同じ中学生の皆さんの言葉には本当に驚きました。

それは、生まれ育った町や市、県を活気ある素晴らしい場所にしたいという思いでした。大変な状況になったからこそ抱いた強い意志だとは思いますが、私自身は、日頃自分のことを考えるのが精一杯で、思いもよらない考え方でした。今後将来のことを考えるにあたって、私も広い視野をもちたいと思えるようになりました。

夏休み明けに、今回の交流事業で学んだことを、全校生徒の前で発表しました。しかし、自分が見聞きしたこと、感じたことが大きすぎて、十分に伝えられなかったように思います。しかし今後、自分の学校で行う避

ことができないし、その大切さも感じるできませんでした。そこで、自分の周りにいる仲間の防災意識を高めるため、まずその大切さを伝えようと思い、今回交流したことを時間を借りて発表しました。

しかし、発表後行われた避難訓練の様子を見ると、真剣に取り組んでいる生徒はまだまだ少なく、全校の仲間に伝えることの難しさを実感しました。

これらのことから感じたことは、今回私たちがしたような体験をより多くの人にしてもらい、どんどん広めていきたいということです。また何回も伝えることで少しでも意識を持つてくれる人がいると思います。

今回私たちがした経験はとても貴重であり、これ無駄にすることを考えて多くの人の防災意識を高めていけるよう努力したいと思います。

難訓練の際には、学んだことを活かしていききたいと思います。どんなことを想定すればよいかを提案し、仲間には、気持ちの入った真剣な訓練を行えるよう呼びかけていきたいです。

そして、私がある一つ提案したいと考えているのが「防災マップ」の作成です。実際に地震が起きたらどう行動をとればよいのか、自分の家を中心に描いたものをみんなにも作ってもらいたいと考えています。

被災地との交流事業は、大げさですが、私の今後の生き方に関わってくる貴重な体験となりました。本当にありがとうございました。



実践紹介2 恵那市立恵那北小学校

ポイント ○ 年間を通して一つのテーマを追求 親子のふれあいや学びの機会を位置付ける

恵那北小学校では、「読書」を軸とした取組を行っています。年間を通して親子のふれあいの機会や学びの場が相互に関連するよう工夫されています。

「読書」を軸とした取組

<在宅取組型>

●家族読書：隔月1回●

実施しない月は、友達に読んだ本を紹介する『友達読書』を実施します。



<学校行事参加型>

●読み聞かせ：11月29日●

40年の歴史を持ち、学校の伝統行事である読書まつりで、全保護者から募ったボランティアによる読み聞かせを行います。

<講演会型>

●親子読書会：11月7日●

授業参観日に親子で読書に関わる講演を聞きます。

講師：増田喜昭氏

子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主



保護者の感想より

増田さんの話に大笑いをしている子どもたちの顔が本当に楽しそうで、つくづく幸せだな～と感じました。夕食時には本の話題で盛り上がり、また楽しい時間が過ごせました。

○ 願う姿に子どもは育つ

編集後記

「子は親の鏡」という言葉もあるように、子どもは親に似るものです。多くの時間を共有する中で、親の持つ価値観が子どもに受け継がれることの現れでしょう。今回はテーマに強い願いを込め、年間または数年にわたる取組を継続する二校を紹介しました。大人が「こんな子に育ってほしい」という願いをもって子どもに接し続けられ、子どもは必ずそのように育ちます。

皆さんの学級のテーマに込められた願いは何ですか。願いの実現に向けて、それが異なる年度や機会につながるよう工夫してみてください。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

～掲載内容～
・平成23～25年度家庭教育学級の実践
・家庭教育学級マニュアル ・家庭教育プログラム（乳幼児期編）

岐阜県 家庭教育学級

検索

実践紹介1 恵那市立武並小学校

ポイント ○ 年度が変わっても同じテーマで その場限りでなく継続する取組を目指す

武並小学校では、毎年「親子のふれあい」をテーマとした、在宅取組型の家庭教育学級に取り組んでいます。取組期間だけでなく普段の生活でも実践できるよう、必要に応じて内容や方法をアレンジしながら同じテーマを継続することで、全ての家庭への取組の普及を行っています。

「親子のふれあい」をテーマとした家庭教育週間の取組

<第1回>

●取組期間：6月16日～22日●

家庭教育週間に「親子のふれあい」をテーマに、各家庭で取組を行います。



◆こんなことをしました(多かったもの)

- ①スポーツ(バレーボール・サッカー・バスケットボール等)
- ②散歩(虫を見に行った・虫取り等)
- ③料理・お菓子作り(夕食作り・誕生日ケーキ作り等)
- ④トランプ・ウノ・オセロなどのゲーム
- ⑤読書・読み聞かせ

保護者の感想より

日頃はつい「ちょっと待っていて」とか「後で」となってしまうけど、意識していると、そのために時間を上手に使えて、子どもとも楽しく過ごせました。勉強もいつもは「やっておきなさい」で終わってしまうけれど、隣に座ったりできてよかったです。

<第2回>

●取組期間：11月17日～22日●

各家庭の取組の中で、よかったと思う実践を紹介します。



キャッチボールをしました

子「キャッチボールをして楽しかったよ。」

親「いつの間にかしっかりしたボールを投げるようになり、キャッチも上手になっていた事に驚きました。子どもの成長に驚きつつ、楽しくできてよかったです。」

五平もちを作りました

子「やって楽しかった。ピーナツをすりつぶしてつかれた。作った五平もちはおいしかったです。」

親「たれをつくるのは大変だけど、手伝ってくれて助かりました。焼く時もとても頑張ってくれて、美味しくできました。楽しく皆で作れてよかったです。」

百人一首で対戦しました

子「楽しくできてよかったです。」

親「家族のみんなでも楽しくできました。子どもの方が強いので、グループ対戦にして何度もやりました。」

お気軽にご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

岐阜教育事務所	058-278-3059	(直通)
西濃教育事務所	058-473-1059	(41通)
美濃教育事務所	057-533-4011	(437)
可茂教育事務所	057-425-1111	(440)
東濃教育事務所	057-111-1111	(364)
飛騨教育事務所	057-331-1111	(429)



1 学校の特徴

本校は、小学部、中学部、高等部の児童生徒が学ぶ総合化した特別支援学校（知的障がい、肢体不自由・病弱の障がいのいずれか、又はそれらを併せ有する児童生徒を対象）として平成二十一年に開校し、今年度で七年目を迎えました。開校当初は二十八名であった児童生徒数も八十八名に増えました。

昨年度は、初めての公開授業研究会を開催し、専門性の高い学びの場を目指して、全校研究（『自立』にむけた力を育成するための指導・支援の在り方）十二年間の学校生活を通して）に全職員で取り組み授業実践力と専門性を高めるために努力をしました。

また、特色ある教育活動として、福祉協力校（海津市社会福祉協議会）に今年度から参加し、地域の人々との交流や地域の小・中学校、高等学校との交流及び共同学習を進め、地域に活動を発信しています。

2 各部の取組

○小学部

小学部では、遊びや体験的な学習を通して「元気に活動し、丈夫な体をつくり、生活経験を増やすこと」や、個に応じたきめ細かな支援と、繰り返し取組で、「基本的生活習慣を身に付けたり、自分の思いを周囲の人に伝える力を養ったりすること」を指導の重点としています。

・交流及び共同学習

仲間と生き生きと活動することを通して、社会性を養い、好ましい人間関係を育むことをねらいとす



▲「レッツスタート!!」英語活動と一緒に行う居住地校交流の様子

る「交流及び共同学習」にも取り組んでいます。中でも、居住地校交流では、六割ほどの児童が交流籍のある居住地校で、年二〜三回の直接交流を行っています。回数を重ねることに、お互いの心も解け合い、思い出に残る相互にとってよい交流となっています。今後も、児童がいろいろなことに興味・関心をもち、楽しく活動できるように取り組んでいきます。

わが子が小学部に入学し、お世話になることになりました。子どもは、二歳十か月に発達障がいと診断され、リハビリ、言葉の教室、保育園の力を借りながら、できることを増やしてきました。しかし、まだ自分の思いを言葉で伝えられずに突然走り出し、座っていてもすぐ脱力してしまう姿に、子どもには必ず先生がついてくたさる海津特別支援学校の支援が必要で、ここなら安心して成長を見守り、高められると決めました。入学して間もなく、勝手に部屋を出てトイレに行っていたわが子が、「おしっこ」と言っていて行くようになり、本当に嬉しく思いました。先生方が、子どもの一つ一つの行動を見逃さず理解してから

付け、生活力を高めるため、季節行事や校外学習等をテーマに、学年の枠を超えて、中学部全員で活動する機会を多く設けています。仲間との関わりを豊かにすることで、一人一人がのびのびと自己表現できる生徒たちになってきました。

また、作業学習では、「ペーパークラフト」「ハンドクラフト」「ハッピークラフト」の三つの班に分かれ、職業的自立に向けた意識や態度を育てています。

わが子は小学部一年生として入学し、早いもので海津特別支援学校に通うようになって七年目になります。小学部入学当初は、多動や言葉の遅れなどで、教室を飛び出し行方不明になるのではないかと、とても不安でしたが、先生方のきめ細かいサポートやご指導のおかげで、これまで大きな事故なく充実した学校生活を送れていると思います。まだまだできないことも沢山あり、私も苛立ってしまうことがあります。ですが、ゆつくりでも自分のペースで成長し、学校で多くの経験を積んでほしいです。これから過す三年間が、今まで過ごした六年間同様、わが子にとって実り多き三年になってほしいと祈っています。

（中学部二年保護者）

○高等部

高等部では、四十一名の在籍生徒に対して、「知的障がい者・重複障

がい者を対象とする教育課程」を実施し、生徒一人一人の障がいの状況に応じて、身辺的自立や社会的自立に必要な基本的な力が身に付くように支援しています。

・地域の中で生徒を育てる取組

特に、平成二十五年度からは社会的自立や職業的自立に向けた実践力の育成に重点を置き、作業学習の時間を週に二時間増やして十一時間とするとともに、地元の多くの企業の協力を得て校内作業実習、就業体験、販売活動等の機会や内容を充実させています。また、今年度は海津市の社会福祉協力校の指定を受け、一人暮らし高齢者との交流を中心にして生徒に思いやりの心を育むとともに、地域社会に積極的に情報提供し、開かれた学校づくりを推進しています。

四月に期待と不安が一杯の新入生を迎え、様々な学習を積み重ねることで生徒たちのまとまりが生まれていきます。十一月に行われた



▲文化祭での一人暮らし高齢者との交流

3 PTA活動の紹介

本校のPTAは、役員以外の会員が、広報研修委員会と福利厚生委員会に分かれて活動しています。委員会の所属は二年を原則に交替し、全員がどちらの委員会活動にも参加できるようにしています。

○広報研修委員会

PTA会報の発行（年三回）、施設見学、研修会、お楽しみ講座を企画、担当しています。今年度は前

文化祭では、生徒たちの日ごろの努力や学習の成果を保護者や地域社会の多くの人に知ってもらうことができました。

これからも「かいづ」という地域の中で「かけがえのない」いのちの「つながり」を大切に取組を重ねていきたいと考えています。

この春から海津特別支援学校での新生活がスタートしました。新しい仲間、新しい環境に期待と不安でいっぱいでした。高等部での生活は、自立の第一歩（自力通学）、苦手の克服（陸上部入部）、就業に向けて（作業学習）と様々なことへの挑戦となっています。今では「作業学習が一日の中で一番楽しい。」と作業の様子を話してくれます。周りの人たちに支えられながら、これらを通して学んだことがわが子の力になっていくことを楽しみにしています。

（高等部二年保護者）

対応してくださっていることに毎日感謝しています。これから、楽しく学校生活を送る中で、いろいろな体験をし、いろいろなことを身に付け、将来につながることを願っています。

（小学部二年保護者）

○中学部

中学部では、生活体験を拡げ自ら進んで活動する意欲や態度を育てるために、保護者、地域、関係諸機関との連携を積極的に図っています。また、校外学習や生活単元学習の時間を活用し、気付いて行動する力や社会性を養うことに重点を置いた取組をしています。

・生活単元学習と作業学習

生活単元学習では、生活に必要な基本的知識・技能や態度を身に



▲作業学習「雑巾づくり」の様子

年までの反省を踏まえ、施設見学を十二月から六月に早めることができました。移動にかかるバス代をPTA会計から支出し、参加者の負担を減らしたこともあって、前年より参加者が増えました。

○福利厚生委員会

資源回収、ベルマーク収集、奉仕作業、給食試食会を企画、担当しています。ベルマーク収集では、今年度に教材・機器類を十点ほど購入することができました。全員がベルマーク整理を経験し、その大変さを共感合っています。効率のよい方法は見付かいていませんが、今年度は整理する日を二日に増やしました。

○課題

開校から七年経ち徐々に会員数も増えてきましたが、PTA活動に参加される方が固定化してきたことや授業参観日と同日でない行事への参加が少ないことが課題となっています。また、毎年反省として挙げられる中に、「会員同士の触れ合いが少ない」という声があり、保護者同志の交流を深めるために少しずつでも親睦が図れるようにしたいと思っています。



▲お楽しみ講座「フラワーアレンジメント」の様子

pleasure
イラスト&クイズ



P.N. 時雨 (岐阜市)



P.N. ツナ缶 (加茂郡)

QUESTION -1

東京と大阪が試合をしました。勝ったのはどっちでしょう？



出題・原 琉木生 (美濃加茂市)
〈答えは45ページ〉



子どもの感想

- ・慣れてくると、どんどん手際よくなっていき、前より上手く作ることができた。
- ・思ったより簡単に作れました。半分手伝ってもらったので、今度は自分で作りたいです。
- ・最初はめんどくさいと思ったが、やってみるとけっこう楽しかった。
- ・お母さんの大変さがわかった、時間がある時は手伝いたいと思った。
- ・母に「あんたが作ると危なくて怖いから」と言われ、食材だけは自分で買った。自分には作れなさそうだ。
- ・途中であきた。めんどくさい。

保護者の感想

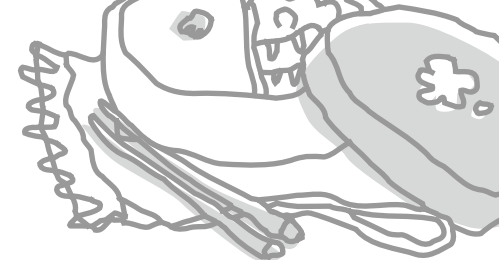
- ・一生懸命メニューを考えたり、失敗したりしながらもがんばる姿が見られ良い機会になった。
- ・中学生になり会話が少なくなってきたが、献立を考える際、多く話することができ、さらに他の事も話すきっかけになりよかった。
- ・お弁当を作ることになり、調理方法や自分で作れるメニューが増えて、良い機会になったと思います。時々食事の時に作ってくれるようになり嬉しく思っています。
- ・作っている時は楽しそうだが、登校時間がせまり片付けをしないので困る。
- ・社会に出たら、嫌でも調理するので、今無理にやらせる必要はないと思う。朝の忙しい時間に迷惑です。
- ・中学生までしか給食が食べられないので、別にお弁当の日などなくてもいい、給食を食べさせてください。



食べる物が有り余っている生活の中で、健康に生きるためにはどうしたら良いのか、何が危険で何が余分で本当は何が必要なのかを子どもたちと一緒に台所に立って語り合い、絆を深めながら、もう一度食の原点、「手間を掛けて作る安全な食」について考えていたきたいと思います。

私たちPTAも、子どもたちのために連携して良い環境作りを推進していきたいと思っています。

お弁当の日



瑞穂市立穂積北中学校PTA 会長 高橋 孝治

「できる！を伸ばす お弁当の日」

本校では、平成二十三年度よりPTA成人教育委員会が中心となって、「できる！を伸ばす お弁当の日」をスローガンに、年二回六月と十月のPTA土曜参観日に「お弁当の日」の取組を行っています。

平成二十三年度は、六月に第一回ということもあり、九州大学 比良松道一先生の講演を行い「お弁当の日」の意味や目的を学びました。そして十月に最初の「お弁当の日」を実施しました。初めての取組ですので中学校にも協力していただき、お弁当の計画書を子どもたちが作るなどの事前取組を行いました。

平成二十四年度は、六月・十月・一月の三回実施しました。六月には「お弁当の日」考案者、竹下和男先生の講演を行いました。一月は三学期の始業式の日を実施しましたが、保護者からは不評で次年度からは、年二回の実施になっています。

平成二十五年度は、「お弁当の日」の実施で、講演会を行っています。このころから少しずつ保護者からの反対意見が増えてきました。その内容は、「お弁当を作る時間が無駄、その時間

に勉強ができる。」「朝の忙しい時間帯に台所が使えない。」「年間二回だけでは子どもが弁当を作ることができるようにならない。」などで、取組に対する理解不足、思い違いに起因するものでした。

このことから、「お弁当の日」の意味や目的を保護者に理解していただき、家庭の中で日頃から食べる（命をいただく）ことについて考え、話題にすることが大切だと感じました。

子どもたちの作るお弁当を見てみると、キャラクター弁当が増え、弁当の出来栄を競い合うようになってしまいい、「お弁当の日」本来の目的が忘れられていました。

そこで平成二十六年度は、成人教育委員会が「お弁当の日」の見直しを進めました。まず、「お弁当の日」の前に、昼休みの校内放送を利用し、「お弁当の日」のポイントについて話をしました。

①良い食事とは、安全安心な食材を使い、家族など信頼できる人たちが心を込めて作った食事であること。②私たちの命は、食材となった動植物の命を受け継いでいるので、感謝して食べること。③食材や食事を作ってくださいる方々

の想いを噛み締めて食べることに。また、安価で手軽なファーストフードと、手作りの食事との違いやその危険性にも気付いて欲しいこと。の三つです。その呼び掛けのおかげで、子どもたちの作るお弁当が一変しました。キャラクター弁当は激減し、彩り豊かなお弁当が増えました。

十月には管理栄養士公認スポーツ栄養士、馬淵恵先生の講演を行いました。調理の時間を確保するため、始業時間を遅らせるなど中学校にも協力をしていただきました。

「お弁当の日」とは、お弁当を自分で作ることが目的ではなく、お弁当作りを通して食生活に関心をもち、自分の体を作る食材、それを作る人、食材を調理する人の思いを感じて自分を大切にし、いずれ自分たちが大人になり誰かに食事を作る立場になったときに役立ててもらうことが目的です。

アンケートの感想の一部を紹介します。

わが家のルール

54

郡上市立大和北小学校PTA副会長 松永 邦宏

松永家の巻

親しき仲にも礼儀あり

ルール①「挨拶はしっかりと」

意外と疎かになりがちな家族への挨拶。親しき仲にも礼儀あり。気持ちの良い挨拶を心掛けています。家族円満の秘訣です。

ルール②「朝食はしっかりと食べる」

一日の始まりは朝食から。しっかりと食べて午前を乗り切ります。今後は私が早起きをして、毎日全員揃って食べることが目標です。

ルール③「使った物は元に戻す」

後片付けは誰でも面倒。しかし、そのまま放置では部屋が散らかるのは当たり前。「誰かが片付けてくれるだろう。」ではいつまでも状況は変わりません。我が家では、使用後は責任を持ってすぐに元の位置に戻すと決めています。簡単な様でなかなか出来ませんが。

特別ルール 「お母さんには反抗しない」

家族全員で遵守しています。



わが家のルール

55

多治見市立南姫中学校PTA会長 奥村 孝宏

奥村家の巻

相互に納得した
ルール作りを

わが家は私たち夫婦と長女（高三）、次女（中三）、長男（中一）、そして私の母の六人家族です。今年は二人の受験生を抱えています。そんなわが家で中三の娘に「スマホ」を貸し与えることになりました。その際、わが家で初めて紙面に明記した『ルール』を娘と相談して作成し、署名することとしました。

内容は、

- ・夜九時三十分以降はケータイをリビングに置いておくこと。
- ・ゲームや娯楽を含めケータイは一日二時間以内とすること。
- ・注意されたことは繰り返さないこと。目に余る場合は一時没収。

など十五項目に渡りますが、私は内容そのものよりもルールを決める経緯が重要だと思っています。

私が示した案に、娘の意見を入れるなど一方的な約束ではなく、お互いに納得したルールを作りました。

その結果、娘は娘なりにルールを守りながらスマホを使っています。ただ、約束の時間外に使用していたこと等から、私が「スマホ」を没収したこともありました。

私自身かなりに厳しいルールだと思っていますが、それぞれの意見を交わし適宜『ルール』を見直せば良いと思っています。



森が戻ってきた。
鳥や虫や動物が戻ってきた。
みんなに笑顔が、戻ってきた。



再生プロジェクトを行っているバリヤン地区の小学校の児童から贈られた絵。
「わたしたちを守って!」という動物たちのメッセージをこめて、描いてくれました。

インドネシア熱帯林の再生プロジェクト

きっかけは、私たちが毎日使っている紙の原料となる木材を少しでも地球に返したいという思い。
たくさんの生き物が暮らす森を取り戻すことで地球温暖化を防ぎ、生物多様性を守ること。
そして、地元の人々の生活を助けること。
地元の子どものための明るい笑顔を力にして私たちは これからも、未来を育む活動をつづけていきます。



立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上火災保険株式会社 www.ms-ins.com

school infirmary

保健室ノート

●関市立武芸小学校 養護教諭
山田 美由紀

全校の健康リーダー

健康委員会！

学校の向かいの保木山の斜面一ヘクタールに渡って広がるカタクリの群生地にはギフチョウが舞い、学校の裏山では、タケノコがニョキニョキ顔を出す春。休み時間には専用のカマを持って子どもたちは山へタケノコ掘りに出かけます。

学校のシンボル、校庭のおおぎりの大木が青々とした葉を茂らせる夏が過ぎ、武芸川特産のツルムラサキの葉を収穫します。自然に囲まれた本校は、全校児童数一〇九名の小規模校です。児童健康委員会は全員で六名。保健班と給食班に分かれて活動をします。

(1) ドキドキ。児童集会での発表！

「ハーハッハハ・私はムシバキンマンだ。くんくんふむふむ見つけたぞ。」

「じゃじゃじゃーん。私は正義のハミガキマンです。やーっ！とーっ！」

毎日、昼休み練習を重ね、はりきって発表！

「劇がいいです。」「バイ菌が、はみがきをしない子に。」「じゃ私は博士をやります。」「ぼくはハミガキマン。」「じゃ私は、歯みがかない子。」「それ名前にしよう。」「と、どんだんアイデアが。毎年、健康委員会の子が発表する劇の記憶に、新しい要素を取り入れていきます。

(2) はみがき名人になれるかな？

判定は、健康委員会！

六・十一月は、はみがき名人活動をします。

健康委員会のメンバーが、歯みがきチェックをして仕上りを判定し、名人に認定します。

「はい。いーして。次はあーんして。ここここが赤いよ。おいしいね。でも九十%以上、判定はAです。」「はい。いーして。すごいピカピカ。一〇〇%、スーパージアです。」

年々、名人の人数が増えてきました。(今年は九五名がクリア)



▲正しいはしの持ち方を覚えましょう。

(3) 食育マナーアップ「はしを正しく持とうキャンペーン」

ぱちぱちできるかな？

レインボールーム(ランチルーム)で全校そろっての給食。いただきますの前に毎日、今日のめあてを言います。「今日のめあては、はしを正しく持って食べようです。いただきますの後にぱちぱち十回やりましょう。」「十一月は、毎日ぱちぱち体操を、全校みんなでやります。一年生の子も頑張っています。

休み時間には、まめつかみチャレンジを行いました。「じゃ、はしを正しく持って。よいいスタート!」十秒間で、まめを何個つまめるかな。正しくはしを持てる子には、名人カードを渡します。(今年は四十名がクリア)「はし、もててね。」「すごいよ。」「中指がちょっとおしいよ。」「今年の最高は十二個でした。来年はもっと名人が増えるように、キャンペーンが終わっても練習をしましょう。」



▲10秒で何個つまめるかな？



▲ぱちぱち10回練習してからいただきます



▲いーして。ここがちょっと赤いね。



▲ハミガキマン登場!!

運動会の思い出

高山市立日枝中学校 教頭

川原 毅

僕みたいな人間にとって、運動会や体育祭というのは、唯一自分の能力を最大限に発揮できる舞台でした。子どもの頃は、駆けっこが早ければヒーローでしたよね？選手リレーでは、バトンをもらう時は最後にもらいたいと思ってました。それを抜いていきたいんですね？要するにカッコつけたいのです。まあ、とにかく「自分のために運動会がある」と勘違いしてどうしようもない子でした。

しかし、小学校六年生の時に人生最初の転機が訪れました。

六年生として臨んだ運動会。その前日に「選手リレー」の練習がありました。最後の全校練習&準備が終わって、グラウンドには本番同様の舞台が整っています。練習とはいえ、緊張感でいっぱいでした。そして全校児童千二百人が見守る中、スタートが切られたのです。

低学年から始まり、そして、アンカーである自分がバトンをもらった時、最下位ながら、抜くには丁度良い距離でした。心の中で、（しめしめ…。最高のヒーローになる絶好のチャンス到来！）と思わず叫んでいました。そして、バックストレートに入ったところで数人を抜き去り、先頭を走っていた仲の良い友達を抜く瞬間、少しばかり並走した後、余裕のアッカンベーをしながら抜き去りました。場内からは笑い声と歓声が聞こえてきました。最高の気分でゴールテープを切ったのです。

その瞬間です。小学校一年時の担任が、血相を変えて近寄り、そのままグラウンドの真ん中まで僕を殴り続けたのです。当時、五十歳を越えたおばちゃん先生です。僕の方が背も高かったくらいです。その先生が僕の頬を殴り続け、どんどん押しやってくるのです。力も余りないものですから、大して痛くありません。冷静にその先生の顔を見たら、なんと大粒の涙をポロポロ流してみえるのです。

そして、僕にこう言いました。

「あなたは今、人間として最低な行為をしたのですよ！」と…。気がつけば、グラウンドは静寂に

包まれていました。千二百人の子どもがいるにも関わらず…。そしてさらにこう言われました。

「そんな事をするための力じゃないでしょう！？」と…。

実はその先生。小学校入学前年に母親を亡くしていた僕の事情を知った上での小学校一年生の担任でした。優しくて気品のある先生…。担任として一年の時だけだったのですが、僕のことを六年間見守ってくれてたんですね？

痛かったなあ…。本気で痛かったです。心が…。恥ずかしかったなあ…。別に千二百人の前でさらし物になったからじゃないです。自分に酔い、過信し、人を蔑み、能力をひけらかす最低な自分が…。です。

大して賢くない僕が、小学校六年の運動会で叱られた内容が理解できたのです。他人に支えてもらっていることや、他人への思いやり、自分の力の発揮の仕方…。

この頃、実はあまりの横暴さで、仲間から嫌われ始めている自分に薄々感じていた時でした。しかし、この指導以来、変わったと言い切れる自分がいます。

この逸話は教師になり担任をしている時に毎年話しました。今でも鮮明に覚えているこの情景は、きつと僕を教師の道へと進ませた大きな出来事なのでしょう。こういう先生になりたいと思っています。（もちろん体罰は絶対に許されませんが…）

その子の人生に多大なる影響を与えられる教師が僕のバックボーンです。

この夏、二十年ぶりにお会いしました。体調が悪いと聞き、お見舞いに行ったのです。すでに八十歳を越えてみえましたが、品はまったく衰えてみえません。

「（あの時の事）覚えていらしたのですね？素敵な先生になりましたね。」と笑顔で言われてしまいました。

僕はただただひれ伏すだけでした。涙が止まりませんでした。すると、
「今度は私が泣かせましたね？おあいこですね。でも、まだ死んでませんよ。」と、冗談まじりに微笑んでくれました。

ALWAYS 七丁目の夕日

数年前に「ALWAYS 三丁目の夕日」と言うタイトルの映画がありました。今回は「子育て半生記」と言う事もあり私の子どもの頃から見た今を書いてみようと思います。

私は岐阜市の繁華街（西柳ヶ瀬）で生まれ育ちました。（いわゆる町の子でここが七丁目です）

繁華街といっても下町っぽいところもあり、近くの駄菓子屋には学校から帰るとすぐに行っては友達と遊んでいるそんな毎日でした。

当時は（私は一九六九年生まれ）TVゲームと言ってもそれほどクオリティーが高くなく、その割には高価でした。その為、アスファルトの地面で日が傾くまで遊ぶ事が多かった事を覚えています。街中と言うことで自営も多く、誰かがどこかで見ていてくれるそんな地域でした。

こんな事がありました。私は当時（小学生）、やらちゃで学校では喧嘩三昧、授業中もじっとしていない、いわゆる悪ガキでした。

喧嘩でクラスメートに怪我をさせる事もあり、ある日その親さんから電話がありました。

（私は黙っていました。近所の方から先に情報は母親に入っていました。）

私の母親は子どもが一番でしたが、甥には厳しく手が出る事も度々でした。怪我をした親さんからの内容を一通り聞いて返した言葉は意外な一言でした。

「子どもの喧嘩に口を出すなんて、あんた最低やね！」

私はこの言葉を聴いて、親に迷惑をかけているとか、悪いとかと言う気持ちの前に、どんな時でも無条件で自分を信じてくれる人がいる、と言う気持ちの方が多く、それからは脱・悪ガキで中学に進学した。

今はどうでしょうか？ゲーム機、音楽プレイヤーがそれほど高くない価格帯で売られ、いつでも購入できます。親もスマホと違いゲーム機、音楽プレイヤーと言う安心感も手伝い買い与えるケースが多いかと思えます。

親も子どもも我慢をさせる、する事が少ないのではないのでしょうか。子どもの頃にどれだけのいろいろな経験をしたか？その後の人格は作られます。方法論は様々ですが、良い事、悪い事の分別、我慢をするなどを教えるのは、大人の役割であると思います。

真正中で『大人とは何ですか』と言うアンケートを保護者と生徒にしました。

生徒は何でもできるすごい人、口うるさい人の意見がありました。保護者の皆さんからは責任の持てる行動のできる人、子どもを守る人などの意見が多かったです。

私の考える大人は『子どもの想像上の生き物』です。私が子どもの頃に想像した大人はもっとしつかりしていったと思います。

（自分がもっとしつかりしない！）

pleasure イラスト&クイズ



P.N. ダンテ（関市）



P.N. 耶場子（本巣市）

QUESTION -2

お風呂が嫌いな子は、大きくなったら何になる？



出題・田口日抱（揖斐郡）

〈答えは45ページ〉

た事を覚えていきます。今、こんな事を言ったら大問題ですが…

保護者の皆さんが無条件で子どもの事を信じ、心配するのは今も昔も同じですが、先にも書きましたが、近所の方が良くも悪くも子どもたちの行動を見守っていたと思います。

現在、本巣市においても地域の見守りは行っていますが、地域差が発生していると思います。

私が子どもの頃は『かみしばい』『ロバのパン屋』など地域活動とは別に子どもたちが集まる場所は今より多かったと思います。（当然子ども会の行事もありました。）

『かみしばい』ではクイズやゲームをする事でご褒美が貰えました。勿論、はじめにウエハースや水あめを買わなければなりません。子どものお小遣で十分買える金額でした。貰えるご褒美は自分で努力した結晶であり、大事に食べた記憶がありますし、子どもなりのルールがそこには存在していました。

そのルールは大人社会のルールの縮小版で、『自分の力で努力し、やり抜く事でご褒美（社会で言うところの認められる）が貰え、ゲームのルールを守らないと周りの子どもたちから文句を（社会で言うところの法を犯したもののへの厳罰）言われながら、して良い事、して悪い事を自然と学んでいたのではないのでしょうか？

また「ロバのパン屋」からはこんな事を学びました。

このパンは通常のパンと違い高いんです。だから毎回、買ってもらえなければならず、特別な時にしか買ってもらえませんでした。つまり我慢をしないといけない時は我慢するのが日常でした。

子どもたちは実によく大人を観察し、その都度対応しています。

皆さんはどうですか？

子どもたちは地域の宝という事は地域人としては当然の考えだと思います。しかし、行動に移している大人は何人いるのでしょうか？

自分に出来ること、やれることは自分自身が一番分かっており、誰もが子どもの頃に見た夕日を、遊んで転んだ時の膝のキズの痛みを覚えてはいるはずで

す。子どもの頃の記憶は大人になっても消える事は無く、思い出という経験がその子を一生支えていきます。

『愛してやまない子どもたちの為』に出来ることはなんでしょうか？

一度、子どもの気持ちに寄り、今を見つめ考える時があれば良いですね！

そしてもう一つ、自分のルーツと言うべき場所はいつの時代も良いものです。

ボランティアニュース

vol.4

人とのふれあい、温もりのある 子育てのために

高山市立丹生川小学校PTA

「わあ！できた。ピカピカに光っている。」歓声が上がります。

丹生川小学校では、父親委員会が中心になって進める、『家族ふれあい参観』を実施しています。今年は、どろだんご、ペットボトルロケット、うどんづくり、魚つかみなど、十四の講座に親子で取り組みました。

毎年、日曜日に開催している『家族ふれあい参観』は、平日の授業参観には参加できないお父さん方にも多く参加していただけて、盛り上がる一日になっています。

家ではなかなか体験できないことを家族いっしょになって体験すること



とおして、普段とは違った子どもの姿を見ることが出来ます。親子で協力し、やり遂げることで達成感や感動を得る場にもなっています。

近年では、地区の社会教育運営委員会やスポーツ推進委員会の方々にも協力いただきながら、子どもたちに数多くの体験の場を提供しています。

父親委員会の活動が、親子の絆を深め温もりのある子育てにつながることを期待しながらこれからも活動していきます。

ベルマークの音色にのせて 『絆』をつなぐ

高山市立朝日小学校PTA

朝日小学校PTAでは、平成二十三年度より、収集したベルマークを被災地支援に役立てようと、交流のある女川小学校（宮城県女川町）に寄贈する活動をしています。

仕分け作業は三年生が担当し、各学年に廻りベルマークの収集から業者別仕分け作業を休み時間や放課後を利用し作業しています。

この仕分け作業は、今の六年生が三年生の時に活動が始まったことから、子どもたちが自分たち出来る



ことを考え、作業するようになり、現在に引き継がれています。その後、PTA母親委員会でも点数計算をします。年々児童数が減少し、それに伴い家庭数も減少する中、活動してからの三年間、女川小学校への寄贈が増加しているのは、家庭での協力と、子どもたちの活動に対する意識の力だと感じています。

山の学校から海の学校へつながる『絆』を大切に、活動を継続していきたいと思っています。



伝統ある交流を支えるおもてなし

高山市立本郷小学校PTA

かいお茶と飛騨名物のみたらし団子をふるまっています。みたらし団子は、その場でしようゆだれをつけて焼きます。休憩時間に団子とお茶をふるまうと、子どもたちは、とてもおいしそうにみたらし団子をほおばりながら、交流を深めます。

夏には、氷見のPTAが交流を支えて下さり、冬はこうして本郷小と本郷小のPTAがおもてなしをすることでも心に残る交流になっています。これからも続けていきたいと思っています。

また、「寒い中で初めてのスキー交流をする子どもたちに、良い思い出を作ってもらおう。」と、PTAが、温



町内二斉清掃で学んでほしい事

高山市立荘川中学校PTA

荘川町では、毎年五月十六日に秋葉様の祭礼があります。この日に荘川町では地域の二斉清掃を行っており、小学生・中学生・保護者・先生が荘川町民の一員として参加します。

自分の地区の道路沿いのゴミ拾い、歩道の掃除を地域の方々と一緒にやって行きます。

地域の方々と子どもたちが直接会話をする機会は少ないので、二斉掃除に参加する事は子どもにとって大切なことです。地域の方から色々な話を聞きながら学び、自分の存在を地域の方に知って頂くことも大切です。

この活動によって、なかなか減らない「ポイ捨て」をいけない事だと意識し、大人になっても自分の町をきれいにする気持ちを持ち続けてほしいと願っています。

荘川町も少子化で子どもの人数も減っていますが、町民・PTA一丸となって子どもたちを見守り続けていきたいと思っています。





自閉症の僕が跳びはねる理由

（会話のできない中学生がつづる内なる心）
東田直樹 著
（株）エスコアール

岐阜大学教育学部附属校PTA
副会長 青山知美



今年の夏、偶然つけたテレビ『君が僕の息子について教えて』

世界がもし100人の村だったら

池田香代子 再話
C.ダグラス・ラミス 対訳
マガジンハウス

高山市立久々野中学校
副会長 古本恵子



今朝、目が覚めた時、あなたは今日という日にわくわくしま



樋口 杏 (本集郡)



P.N. 杉田智子 (美濃市)

逆さ言葉

このらいおん
おいらのこ

(このライオン、おいらの子)

出題・間野ふみな (多治見市)

くれたこと』に、私たち家族は釘づけになりました。自閉症である東田直樹さんが七年前に綴ったエッセイ『自閉症の僕が跳びはねる理由』が、七年たった今、世界二十ヶ国以上で翻訳され、イギリスやアメリカでベストセラーになったそうです。今まで、自閉症の子ども本人が、その世界を語ることはありませんでした。多くの自閉症の子は、人と会話するのが苦手です。東田さんは何度も挫折を繰り返しながら、口で会話する以外のコミュニケーションの方法として、最初は筆談、今ではパソコンや文字盤を使って、自らの心の内を表現できるようになりました。お母様の粘り強い手助けと、ご本人のあきらめない精神力と努力があったからこそ成し遂げられたことだと思っています。

『自閉の世界は、みんなからみれば謎だらけです。少しだけ、僕の言葉に耳を傾けてください』

きつと親や先生や周りの人たちは大喜びで「普通に戻してもらいたい」と言うでしょう。（中略）でも、今ならもし自閉症が治る薬が開発されたとしても、僕はこのままの自分を選ぶかも知れません。（中略）障害のある無しにかかわらず人は努力しなければいけないし、努力の結果幸せになれることが分かったからです。（中略）自分を好きになれるのなら普通でも自閉症でもどちらでもいいのです』

人は、どんな立場であっても、努力すれば幸せになれると私も思います。生きるということは、努力し続けるということなのかもしれません。自分を知り、人を知り、お互いを認めることができたなら、温かい気持ちで共に生きていくことができると思います。ぜひ親子で一読して頂ければ幸いです。

したか。今夜、眠る時、あなたは今日という日に満足しましたか……と言うメッセージで始まります。

に預金があったり、お財布にお金が入っていたり、車を持っている裕福な方が、ほんのひと握りほど。その反面、食べ物の蓄えがなくて、栄養が十分でない人、雨露しのぐところもなく、空爆や襲撃に怯えている人達に世界にみえること。

ができることを願うばかりです。日々生活をしている中で、いろんな考えがあると思いますが、疑問も含めて感じたことや、こ

月日が経った時に、どう思うか、この状況が変わっているか、考えながら、もう一度読み返してみたいと思う一冊です。

子の思い

はじめて海に行ったら

高山市立宮小学校

三年 岩西はるか

七月二十日に、家族で海に行きました。わたしは、はじめて海に行くので、どんな生物がいるのか、海は、どれくらいの深さなのか、知りませんでした。

岩ばに行ってみると、だんご虫みたいに、小さくて、せなかに線が入った虫を見つけた。ほかに、何かいかなかなと思って、さがしていたら、足をすべらせて石と石の間にはさまりました。足を見ると、血が出ていました。いそいで海に入って足をあらいました。お母さんに、

「ちよつど、しお水が薬になったね。」

と言われ、気持ちが落ち着いて、本当になおったような気がしました。そしてまた、海に入って泳いだり、すなはまで弟と一しょに、大きい穴をほったりしました。

つぎに、わたしが、海でうきわ

にうでをのせて泳いでいたら、足のつかないところまで来てしまいました。でも、うきわがあったので、安心して泳ぐことができました。

また、来年の夏にも、家族と一緒に、海に行って遊びたいです。

三十一文字にのめる思い

郡上市立大和南小学校

五年 白田和哉

「一滴の 絵の具で色がつくように 一言だけで 気分も変わる」

これは、ぼくが杉原千畝短歌大会に出した短歌です。この短歌は、ねる前にふとひらめいたものです。

ぼくは、この「ひらめき」を短歌を作るときに大切にしています。十分も二十分もなやんで作った短歌は、大抵あまりいいものではありません。それよりも、ご飯を食べているときや、お風呂に入っているときにパッとひらめいた短歌は自分でも納得できます。

また、一度聞いただけで忘れら

れないような印象に残る短歌を作ることも意識しています。それは、聞いただけで情景が想像できたり、短歌にこめた思いが伝わったりする短歌のことです。そんな短歌を作るために、ただ自分が思ったことを書くだけでなく、何かに例えたりまわりの様子や風景から気持ちが伝わったりするような短歌を作ることが心がけています。

その中でも、特に「例え」の表現を意識しています。例えの表現も、思ったことをそのまま書いています。また、例えを使って深い表現ができたらいなと思っています。

短歌を作ることばくにとつて生活の一部です。短歌を作ること

はとても楽しいし、自分の作った世界にひたることができて、幸せな気分になります。だから、これからもぼくは短歌をたくさん作っていききたいです。

「おれライオン 一人なんだけ自由だぜ 言ってみただけ 弱虫なぼく」

が、人とかかわると良く分かります。学校生活でも、先生や友達に勉強を教えてもらったり、話を聞いてもらって生活しています。家では、両親にご飯を作ってもらったり、相談に乗ってもらったりして生活しています。こうやって、普段はあまり気がつかないけれど、私たちはいろいろな人に守られたり支えられたりして生きています。

直接かかわってなくても、私たちは物を通してたくさんの人とかかわって生きていると思います。人とかかわるといことは、人が生活するのにとても大事なことで、少しも人とかかわらずに生きることはできないと思います。

この四つのことから、人とかかわ

人とかかわりにつな

土岐市立駄知中学校

三年 加藤真韻

私は人とかかわりはとても大切なものだと思います。その理由は四つあります。

一つ目は、人とかかわりは人の心を成長させると思うからです。私は、人とかかわるのがあまり得意ではなく、学校に行くのがいやだなあと思うこともありました。しかし、友達や先生などのまわりの人たちに話しかけてもらって、少しずつ人とかかわることができるようになってきました。また、東日本大震災などでも、心に負担がかかっていた人が、ボランティアなどの人とかかわることによって、心の負担が軽くなることもあると思います。人とかかわりは、心の中にある嫌なことや不安を少なくし、成長するのにとても大切だと思います。

二つ目は、人とかかわることによって新しい考え方やものの見方が出来るようになると思うからです。人とかかわらないと、自分の考えだけでまわりの物事を見てし

るのはとても大切なことだと思います。人とかかわると、嫌なことや辛いこともあります。しかし、うれしいことや楽しいこともたくさんあります。なので、私はできるだけ人とかかわって、自分の安心できる場所を見つけたり、考え方を

変えたりしたいと思っています。

親の願い

役員の大切さと感動

垂井町立合原小学校PTA

会長 兒玉 勝

最初の子どもが入学してからだと、十二年間お世話になっている合

大垣桜高校
まんが研究部

卒業ですね！パートⅠ



逆さ言葉

ははたべたちんみと
みんちたべたはは
(母食べた珍味と、ミンチ食べた母)

出題・岡田隆矢 (揖斐郡)

原小学校です。しかし、今まで学校のことは妻任せで自分に関わってこなかったで、役員としてのこの一年は特に長く感じられます。単P役員としての仕事も分からないのに、町P、郡P、西濃P、県Pの役員も担い、本当に全てをこなせるのか、仕事に支障が出ないか心配でしたが、妻に助けられ、他の役員さんにも協力してもらい、何も分からないうちにここまで来たように思います。

初めは、すべて子どものためと思い引き受けたが、学校行事を通して子どもの様子を見聞きしていくと、今までにない大切な一年に思えてきます。子どもが授業を受けている様子、友達と遊んだり、ふざけたりしている時の笑い声。どんな係をして、何のクラブに入り、何に興味を持っているのか、そういったことに全然触れずきたような気がします。今まで仕事が一番でやってきて、何も知らずにきたことが惜しまれます。

普段、家の中での様子を見ると、「この子は小学校の最終学年としてしっかり出来ている

のか。」と心配になることがあります。手伝いをするときも、宿題をするときも、きまりを守るときも、自分から率先してしたがらないのに、登下校時の下級生の子を見守ったり、学校行事の時に手本になるような行動をしたりしているのだからかと、心配になります。

けれど、学校に行ったときにはいつも、先生方から子どもの様子を教えていただき、子どもの姿を見ているうちに、「この子、成長したなあ。」と思うことが多々あります。家では全然気付かないのに、なぜか、学校では別人のように成長しているのです。子どもにとって学校は変化し続け、刺激を受ける場なのかもしれません。

二年間の本部役員の仕事を通して、初めて子どもを取り巻く学校の存在の大きさ、地域の方のありがたさを知りました。残り少しの任期になりますが、子どもたちにもっと合原小を好きになってもうえるように頑張ります。

人生の選択

本巣市立本巣中学校PTA

会計 竹中さゆり

最近、人生の選択についてつくづく考えさせられる日々が続いています。

この、一生を左右されるかのような言葉の重み…。

何故ここまで深く思うかというと、今年度、中三の長男が受験するからです。彼が生きてきた十五年間、このわずか十五年間で、彼は彼の人生を選択できる、決断できる人間に成長しているのでしょうか？後悔しない選択が、出来るのでしょうか？

ここでいう選択とは、ズバリ志望校選びの事です。

自分の行きたい高校の特色、学びたい内容等の全てを理解しているのでしょうか？

今まで将来の目標や夢などに語る事などなく、ただ毎日を楽しく過ごしてきました。学校での勉強、部活、友達との関わり合い、家庭で家族と過ごす時間、折に触れ将来の夢を語るこ

とはあっても、それは抽象的な物ばかり…。具体的なことではありません。

もちろん、この志望校の選択が彼のこれからの人生の全てを決めつけるものではありませんが、大きな道のりの一つとはなるかと思っています。

そして私達夫婦は、親として、また人生の先輩として、道標を示すことは出来るのでしょうか？

今年の春先から志望校を漠然と決め、第一志望と第二志望と悩む毎日でした。(悩んでいたのは、もしかしたら親のみかもしれませんが…)

師走に入り、例年になく大雪に驚いていても、中三の十二月は忙しいです。個別懇談、書類提出、悩んでいる時間などありません。

そして、出した結論は…。

第一志望にチャレンジしていくと、不安な気持ちはあるけれど、一度諦めてしまったらそれこそ同じ事なので、トライしていく事にしました。

チャレンジ、トライという言葉があるという事は、余裕は全くな

教育の窓

本物の宝づへりをめざって

可児市立今渡南小学校

教頭 石田和子

本校は長い歴史と伝統を持つ学校です。広い校庭、広大な農園、自然の森など恵まれた環境を利用した様々な体験活動を核としながら、学校自慢づくりに取り組んでいます。

育てたサツマイモを使った鬼まんづくりでは、地元の和菓子屋のご主人を招き、二十七年続くホテル飼育やクラブ活動等々、多くの地域の外部講師に指導していただいています。また登下校時の見守りボラン

ティアなど、児童の安全や豊かな体験活動を地域や保護者が積極的に支援してくださる地域です。

新任教頭として玄関掃除を継続することを日課としている私に、「何

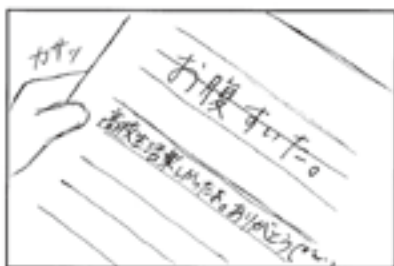
やつてるの?」と問いかけてきた児童が一緒に箒を持つようになってから七ヶ月が過ぎました。初めは一人だった朝掃除隊が学年をまたいで増え、メンバーはいろいろ替わりますが、それでも今日まで継続していることに喜びを感じています。

初めは玄関だけだったのが、夏を過ぎる頃から落ち葉を掃き集める児童も出てきました。校庭には百本近くの桜をはじめとする立派な樹木があり、それらの葉が時期をずらして、次から次へと舞い落

ちます。落ち葉掃きを続ける中で児童は徐々にコツを覚え、熊手や箒、一輪車を使いこなせるようになってきました。私が出張でない時や他の用事で手が離せない時でも、自分たちだけでせつせと掃除をしています。たくさんある桜の花の美しさは自慢となっても、それは学校の手柄ではありません。しかし、落ち葉を掃き集めた後の校庭には、そこで活動した子どもたちの事実が残っています。学校をきれいにして気持ちのよい環境を自分たちの手で作ること、そこで学ぶ自分たちの肯定感につながると思っています。

「掃除をしてくださってありがとうございます。」と声をかけてくる

卒業ですね！パートⅡ



逆さ言葉

わたしこのかいと
いかのこしたわ
(私、この貝とイカ残したわ)

出題・葛西 陸 (本巣市)

子や、音楽の指導に出かけると「今日は教えてくださってありがとうございます」と近寄ってくる子がいます。いわゆる「落ち着いた学校」といわれるところでは、こういった言葉を耳にすることが多いと思います。素直に「ありがとうございます」と言えるのは、家庭や地域など温かい言語環境の中で育っている子が多いのだと察します。だとすれば、学校でも正しい言葉遣いを教えることは勿論ですが、発する言葉の中身にも目を向ける必要があります。「どうぞ」といつてプリントを渡せる児童、わずかな心遣いに対しても「ありがと。すごいね。うれしいよ。」と伝えられる教師、遅刻して登校した児童に対して「おはよう」と明るく迎え入れる学級であれば、教室は居心地の良い場となるのです。

学校は安全で安心できる場所。これが基盤であり、この基盤があってこそ学力の向上や主体性が身に付きます。「手をかけなくても立派に咲く桜」に負けない、手をかけて花開く学校の自慢づくりを推進していきたいものです。

チャレンジする気持ちが「財産」になる

岐阜市立岐阜中央中学校
教頭 高橋 誠

教員になって三十一年目。現在、人に聞かれて答えに困る質問がある。それは、「趣味は何ですか」とか。以前は、「教育です」とか「わが子と遊ぶことです」と答えていたが、子どもが大きくなった今、もうあてはまらない答えだし、基本的にそれらは趣味ではない。何とつまらない人間なんだろう。

答えに窮する自分の中に、後悔の気持ちもふつとわいてくる。高校生の頃、通学に一時間以上かかったことを理由にして、何の部活動にも入らず、勉強したことが覚えていない自分。大学生の頃、下宿先（雪国 石川県）のご主人から何度もスキーに誘われたのに骨折を心配して断り続けた自分。アルバイトとしてゴルフ場の管理の仕事をしていながら、ゴルフに挑戦しなかった自分。何と消極的で弱虫だったんだろう。あときのチャンスを生かしていれば、冬の到来を楽しみにしてスキー場に通う自分、そして何よりわが子をスキー場に連れて行ってスキーを教える父親になっていただろう。また、スキーのシーズンオフには同僚と一緒にゴルフ場へ出かけ、緑の絨毯の上で颯爽とプレーし、仲間の輪を広げていただろう。もちろん「趣味は何ですか」にも間髪入れずに答えることができるだろう。「教員」としては今でもやりがいを感じ、自分の中でも充実している実感はあるが、「人」としてはどうなんだろう。もっと違う、興行きのある「自分」になっていたのではないか。

今から五、六年前、私が小学校に勤務していた頃、スポーツ少年団への加入率の低下、低さが話題になった。その中で子どもは加入したいのだが、保護者側の都合で加入できないということが何件もあった。団の活動日である土、日曜日に送迎や当番ができないという理由であった。岐阜県内の小学生のスポーツ少年団への加入率は二十四年度に二十パーセントを下回り、昨年度にはさらに低下し、

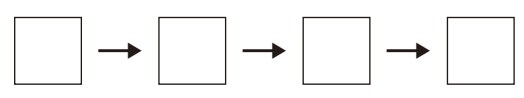
十八パーセント台になった。小学生が屋外で、集団で遊ぶ姿を見なくなっている。小学生は休日になんかしているのだろうか。習い事や学習塾だろうか、それとも部屋ですっとゲームをしているのだろうか。ぜひ保護者として自分の愛する子どもの様子に目を向け、高校や大学に入れることだけを目的にするのではなく、幅広い視野と高い人間力を身につけた社会人に成長できるようなことにチャレンジし、体験できるようにわが子の背中を押し、応援してあげてほしいと切に願っている。

私はまだこれからも情熱を忘れず、目の前の児童生徒の成長のために学校現場でがんばるつもりであるが、その合間に、今、自分の父親に任せきりになっている畑での農作物の栽培にチャレンジしたいと思っている。今から三年後、「趣味は何ですか」と聞かれたら「野菜作りです」と答えるつもりである。

Q1

昔から季節を表す言葉に「二十四節気」があります。順番を調べてみましょう。当てはあてまる順にA～Dを入れてみましょう。

- A: 春分(しゅんぶん)
昼と夜の長さがほぼ一緒
- B: 啓蟄(けいちつ)
冬ごもりの虫が地中からはい出ころ
- C: 清明(せいめい)
天地がすがすがしく明るい空気に満ちころ
- D: 穀雨(こくう)
穀物を育てる雨が降ころ



ヒント!
2015年は
3/6、3/21、4/5、4/20
が節目の日です

Q2

ある法則にしたがって、県名が英単語に変換されています。では、宮城は何という言葉になるでしょうか?カタカナ3文字の英単語になります。

- 鳥取: バード
- 香川: リバー
- 石川: ロック
- 青森: アント
- 宮城: ???



ヒント!
漢字をひらがなに変換してから考えてみよう!

親子ではてな

3月号のクイズ

1月号クイズ答え

- Q1 2015
- Q2 ひつじどし(未年)

1月号のクイズ当選者

岩倉 優菜(各務原市) 勝 有萌果(不破郡)
伊藤 慎介(山県市) 浅野 瑠久(揖斐郡)
田中ゆかり(岐阜市) 徳田りゅうき(関 市)
池田 琴葉(大垣市) 福田 悠将(関 市)
戸川 綾真(安八郡) 澤 雄太(郡上市)
高野 遥(安八郡) 長瀬 良磨(美濃加茂市)
大西菜々穂(養老郡) 工藤菜々子(瑞浪市)
西川 結菜(不破郡)

応募方法

応募者は、はがきで、3月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA連合会事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 3月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉



★お試しクッキング★ 桑の木豆の中華煮



桑の木豆は美濃飛騨伝統野菜のひとつで、乾燥してもサヤごと戻して食べることができなのが特徴です。桑の木は桑の木の株元に種を巻き、つるを桑の木にはわせて栽培されたことから「桑の木豆」という名前になりました。桑の木豆は、「いんげん」の仲間、収穫は十月頃です。生の時は、緑のさやに鮮やかな赤いかすり模様がですが、乾燥したり、ゆでたりすると、赤いかすり模様は消えてしまします。「桑の木豆」の美味しさは、ホクホクした食感があることです。

今回は桑の木豆を使用しましたが、大豆や金時豆、白いんげん豆など、手に入りやすい豆でも代用できます。麻婆豆腐の豆腐を豆に替えたものとイメージしてください。この料理は、豆を多く食べることができ、体をつくるたんぱく質を多く含む豆で、米に不足しがちな栄養を補うことができます。豆料理は、家庭でもぜひとり入れてほしい食品です。

材料 4人分

- ・豚ひき肉 150g
- ・サラダ油 小さじ1/2
- ・しょうが 5g
- ・にんにく 5g
- ・たまねぎ 1/2個
- ・ねぎ 1/3本
- ・桑の木豆 (さやから出した乾燥豆) ... 80g

- ・水 150ml
- ・砂糖 小さじ1/3
- ・料理酒 小さじ1
- ・中華スープの素 小さじ1/2
- ・濃口しょうゆ ... 大さじ1/2
- ・赤みそ 大さじ1/3
- ・豆板醤 小さじ1/5
- ・片栗粉 小さじ1

●栄養価(1人分)

エネルギー	161kcal
たんぱく質	11.0g
脂質	6.9g
カルシウム	34mg
鉄	1.6mg
亜鉛	1.4mg
ビタミンA	5μgRE
ビタミンB ₁	0.32mg
ビタミンB ₂	0.13mg
ビタミンC	4mg
食物繊維	36g
塩分相当量	0.7g

作り方

- 桑の木豆は、一度茹でこぼしをし、たっぷりの水で柔らかくなるまで、下煮する。(豆が鍋の中でおどくら湯を沸騰させると、豆が割れてしまうので火加減に注意する。)
- しょうが・にんにくは、みじん切りにする。
- たまねぎは、あらみじん切りにする。
- ねぎは、小口切りにする。
- フライパンにサラダ油・しょうが・にんにくを入れ、しょうが・にんにくの香りが出るように炒め、豚ひき肉を加えて炒め、さらに、たまねぎを加えて炒める。
- 柔らかくなった桑の木豆を入れ、水150mlを加え、調味料(A)を入れて煮る。
- ねぎを入れて煮る。
- 同量の水で溶いた片栗粉を入れて、トロミを付けて仕上げる。

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の解答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■1月号を読んで

「くいつQ1のかけざんわりざんがわからなかったけど、ママといっしょにやってみたらわかった。バズルみたいでたのしかった。MFさん

毎回来しみにしています。うちの小学校は全校で三十一名。今春の新入生はうちの子一人だけです。とても不安ですが「わが子のあゆみ」を見てみると、小規模校でもいろいろな活動をしていたり、地域と密着した心温かい活動が多くてびっくりです。T Hさん

「わが家のルール」がおもしろいと思いました。私の家にもルールがあり、その家によって細かなルールもたくさんあるだろうと思います。子どもが成長するにつれ、もっとルールが増えると思います。K Tさん

毎号、岐阜県内のいろいろな小中学校、PTAで行われている活動に感心しながら読んでいます。息子たちの通う小学校も、先生方、PTA、父兄が一丸となって活気のある学校づくりをしていると思います。これからも子どもたちがキラキラ輝く学校が続くことを願っています。F Mさん

様々な地域の学校のさまざまな取り組み、岐阜県の中でもいろいろあるんだと、興味深く読ませていただいています。心に残った「それでいいんだよ」「それでいいの」や「速に感化されて善化する」「感動」が子どもたちを動かす原動力になるのだというお話しなど、日々の子育ての参考になりました。ありがとうございました。T Kさん

毎号、いろいろな学校の様々な活動の紹介を読み、ほかほかしております。長女に続き二女の親としてPTA役員をさせていただいています。長女の時の役員は七年前で、七年も経てば親も変わり、PTA役員の仕事も変化しています。子どもの事より親のことを優先しなければ進まないこともたくさん出てきています。子どものためにやっているのに...、悲しいことです。親の教育が必要?これからも楽しい記事を待っています。K Yさん

「地域の中で共に生きる」、特別支援学校があることは知っていましたが、居住地域交流という取り組みがなされていることを初めて知りました。地域の一員として成長すること、障がいに対する理解や知識が高められること。子どもの成長発達において、素敵なことだと思います。N Mさん

学校の生徒が少ないところの方が、地域との交流が多いような気がします。コマもけん玉も流行しているの、そんなところから昔の良さを知ったり、祖父母を大切にしたり、関わり合えば地域も学校も良くなるので、そうなって欲しいです。I Yさん

子どもが一年生の時から、ずっと同じ筆箱を使っています。他のお友達は特に女の子は袋タイプの大きい物で、中身もシャープペンシル、赤青ボールペンが入っていてびっくりです。うちは未だに鉛筆と赤青鉛筆なので...。鉛筆なんて長いキャップを使用するので、最短で五センチとかです。K Mさん

私自身、中学生の頃に保健室、そして養護の先生に助けられました。体調不良はもちろんですが、心・気持ちのヘルプとして保健室を利用していました。学校に自分の存在を受け入れてもらえる場所があると思うだけでも救われます。M Mさん

あつという間に一年、小学生の六年間無事卒業です。中学に進学しても、貴誌よませていただきます。K Yさん

■編集後記

昨年12月、ノーベル平和賞にパキスタンの17歳の少女、マララ・ユスフザイさんが選ばれました。以下、受賞スピーチの一部を紹介いたします。

「私はただ、全ての子どもたちが質の高い教育を受けることができることや、女性が平等な権利を持てること、そして世界の隅々まで平和であることを願う、熱心で頑固な人間でしかありません。私たちは教育を渴望していました。なぜならば、私たちの未来はまさに教室の中にあったのですから。ともに座り、学び、読みました。格好良くて清潔な制服が大好きでしたし、大きな夢を抱きながら教室に座っていました。両親に誇らしく思ってもらいたかったし、優れた成績をあげたり何かを成し遂げるといった、一部の人は男子にしかできないと思われていることを、女子でもできるのだと証明したかったのです。

ですが、こうした日々は続きませんでした。観光と美の地であるスワートが突如として、テロリズムの地と化したのです。400以上の学校が破壊され、女性たちはむちで打たれました。人々が殺されました。そして私たちのすてきな夢は、悪夢へと変わったのです。

教育は「権利」から「犯罪」になりました。女の子たちは学校に行くのをやめさせられました。しかし、私をとりまく世界が突如として変わったとき、私が優先すべきことも変わったのです。

私には二つの選択肢がありました。一つは黙って殺されるのを待つこと。二つ目は声を上げ、そして殺されることです。私は後者を選びました。声を上げようと思ったのです。

テロリストたちがいう正義を、ただ傍観することはできませんでした。すべての権利を認めず、無慈悲に人を殺し、イスラムを悪用するものだったからです。私たちは声を上げ、そして彼らに言おうと決めたのです。「コーランでアラアが『一人の人間を殺すことは、全人類を殺すのと同じである』とおっしゃっていることを学ばなかったのですか。ムハマドは自分を傷つけるな(自殺をするな)、他人もだと言っています」。そして、こうも言いました「コーランの中で最初に出てくる『イクラ』という言葉葉を知らないのですか」と。これは、「読め」という意味です。(以下略)」。『訳・英語力biz 藤田マリオ』より引用

今、中東で「イスラム国」と称する人たちが暗躍し、人道無視の暴挙に出ています。日本にもその被害が及びました。「わが子のあゆみ」の理念とは真逆です。今年度、最後の号をお届けします。

■なぞなぞの答え

- ①東京(葛飾区・勝つ資格があるから)
- ②モデル(も一出る!!と言うから)

わが子のあゆみ

平成27年3月1日 発行
春風号 第66巻5号
通巻437号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259
ホームページ／http://www.g-pta.com
Eメール／info@g-pta.com
印刷／サンメッセ株式会社

三枝小学校は「ホタルとかぶら市の学校」として高山市内では有名です。ホタルの飼育は三十年、かぶら市は四十年も前から三枝小学校の伝統行事として続いているからです。

昭和六十一年の夏、二人の女子児童が夏休みの研究でゲンジボタルの生態を調べました。これがホタルの飼育を始めたきっかけでした。翌年、「ホタルの里・三枝」をめざして、「ホタル保存会」が発足し、学校、保護者、地域が協力してホタルの保護活動に取り組むようになりました。

学校では、四年生児童がホタル保存会の方やPTAホタル委員さんに指導を受けながら、ホタルの飼育を担当しています。四月の始め、ホタル保存会の方からホタルの生態や飼育の方法を学び、ホタルの世話を始めます。餌となるカワニナの採取、ホタル小屋の掃除、幼虫の観察、毎日当番を決め、取り組みます。四月中旬には、大きく育った幼虫を校庭にあるホタル夢ランドに放流します。ホタルの成虫が舞い始める六月終わり、ホタルの夕べ・観賞会を開きます。四年生がホタル飼育の様子を発表した後、児童、保護者、地域の方がホタル夢ランドや学校周辺で舞うホタルを観賞します。その後も四年生は、ホタルの飛翔数を調べたり、次年度に向けて卵から羽化した幼虫を育てたりしていきます。

かぶら市は、昭和五十年に「みどりの学習校」の指定を受けたことをきっかけに始まった行事です。始めた頃から少しずつ内容は変わってきましたが、伝統の行事として今も大切にしています。

九月、縦割り班で畑に赤かぶと大根の種をまきます。水やりは六年生が中心に行います。草取り、間引きなどの作業は、縦割り活動の時間を利用して、それぞれの班で行います。十一月、大きくなった赤かぶと大根を収穫し、かぶら市の準備をします。収穫した赤かぶと大根をきれいに洗って縛り、出来具合等を考慮して値段を決めます。翌日のかぶら市では、縦割り班ごとに運動場にブルーシートを敷き、その上に赤かぶや大根を並べ、訪れた方々に販売します。今年は豊作で、たくさんの赤かぶや大根が収穫できました。駐車場が足りなくなるくらいに来場者が開場と共に児童のもとを訪れ、「私たちの作ったかぶや大根を買ってください！」という児童の声に押され、次々と赤かぶや大根を買っていただきました。

児童は、三十年、四十年続くホタルの飼育、かぶら市を自分たちの学校の誇りと感じています。保護者の中には、親子でホタルの飼育やかぶら市を体験された方もみえます。

地域の方は、ホタルの夕べ、かぶら市をとても楽しみにしています。保護者、地域と共に歩む学校をめざして、これからも二つの伝統行事を保護者や地域の方と一緒に守り続けていきたいと考えています。



▲【ホタルの夕べ】
4年生がホタル飼育の様子を歌やクイズを交えて説明します。その後、親子でホタルを観賞します。



▲【カワニナ採り】
近くの用水でカワニナを採り、ホタル小屋にある幼虫の入った水槽やホタル夢ランドに放流します。



▲【ホタルの幼虫の放流】
大きく育った幼虫をホタル小屋の水槽から出し、ホタル夢ランドに放流します。



▲【かぶら市】
保護者や地域の方に赤かぶや大根を販売します。
「私たちの班の赤かぶを買ってください!」「ありがとうございました!」
子どもの元気な声が運動場に響きます。



▲【赤かぶ・大根洗い】
収穫した赤かぶと大根を一本ずつ丁寧に水洗いします。



▲【赤かぶ・大根の収穫】
縦割り班で、赤かぶと大根の収穫をしました。泥だらけになるので、カッパを着ながら収穫します。

伝統を守り続ける三枝小学校

きらい！キッズ！

土岐市立土岐津小学校

土岐市立土岐津小学校は、全校児童四九五名の学校です。明治二五年に土岐津尋常小学校として開校。平成二五年には半世紀にわたる文化と歴史を築いた北舎が、新しく建て替えられました。

本校では、学校の教育目標「よく学び やりぬく子」のもと、実践目標「あいいうえお」を合言葉に、その達成に向けて地域ぐるみで取り組んでいます。

今回は、五つの実践目標の中から「い…いつも元気に外遊び」を支える歯みがきを取り上げます。心身共に健康な体をつくるために、運動・食育・歯みがき指導に力を入れています。



めざせ！ 歯みがき名人

今年度の具体的な取組は大きく五つ。「生使う歯だから、大切にしていきたい」という意識がさらに高まる実践を重視してきました。

一つ目は、ペアブラッシングによる児童相互の歯みがき活動です。「歯みがき名人土岐津っ子」をめざし、高いブラッシングスキルを身に付けた高学年が、ペアの低学年にみがき方のコツを教えます。

二つ目は、「3・3・3運動」に向けた保健委員会の啓発活動です。保健委員が土岐津っ子歯みがき隊に扮し、アイデアあふれる活動を展開しています。

三つ目は、養護教諭や担任による積極的な予防指導です。「ミニ保健指導」をはじめとして、「カミング30」、「はつり読み」、「あいいうべ体操」などのトレーニングを盛り込んでいます。よく噛んで食べる指導の工夫・改善という点からも効果を上げています。

四つ目は、学校歯科医や歯科衛生士による歯科指導、栄養教諭による食育指導です。専門家の指導により歯みがきに関する知識・技術の向上が図れています。

最後は、PTAとの連携や地域への啓発活動の推進です。家庭での親子歯みがきの活動はもちろんのこと、家庭教育学級で学校歯科医さんから歯に関する講話を聞いたり、町内のイベントやお祭りでポスターを貼り、噛むことの大切さを伝えたりしてきました。

今後は継続的で主体的な取組で、キラリと輝く歯と口の健康から、体の健康を考える子どもたちを育てていきたいと考えています。

歯と口の健康から 体の健康を考える土岐津っ子



“土岐津っ子歯みがき隊”に扮する保健委員「3（1日3回）・3（3分以内に）・3（3分間）運動」に向けて各教室へ出向き、歯みがき指導をしています。



だえきブルー
3・3・3ピンク
フッ化物パープル
歯みがきレッド
かみかみグリーン
ぶくぶくいエロー



地域ぐるみの取組（一部紹介）
養護教諭、栄養教諭、担任の他に、学校歯科医さん、歯科衛生士さん、保護者・地域の方々や強力なスクラムを組んで取り組んでいます。



実践目標 土岐津小「あいいうえお」
月の重点目標に位置付け、読書、体力づくり、掃除・挨拶・学習の5つの活動に全校が一丸となって取り組みます。



ようこそ 歯みがき名人の土岐津小学校へ
北舎は多目的室、芝生の中庭、回廊型の廊下、太陽光パネル、そして何よりも解放感のある教室が魅力的。

歯みがき名人土岐津っ子1、6年



1年生と6年生のペアブラッシング
～めざせ！ 歯みがき名人土岐津っ子～
6年生が1年生に食べ方・みがき方のコツを伝授。

歯みがき名人土岐津っ子2、4年



2年生と4年生のペアブラッシング
～めざせ！ 歯みがき名人土岐津っ子～
4年生が2年生にみがき方のコツを伝授。

全校生徒47名の神測中学校には、野球部、バドミントン部、剣道部の3つの部活動があります。陸上部はありませんが、夏に行われる可茂地区陸上大会や秋に行われる駅伝大会にも希望者で参加しています。また、文化部ありませんが「ものづくり部」として、中学生創造ものづくり教育フェアにも参加しています。少人数での活動ばかりですが、卒業生や地域の方々の支えによってそれぞれの大会で充実した結果を残しています。それぞれの活動の様子について伝えます。

光みちる「みはぎの里」神測中学校

ものづくり部



「中学生創造ものづくり教育フェア」に毎年参加しています。文化部のない本校ですが、11月上旬に開催される岐阜県大会の4部門<木工チャレンジコンテスト><豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール><あなたのためのおべんとうコンクール><創造アイデアロボットコンテスト>に希望者が参加しています。

主に夏休みから活動が始まり、正規の部活動と並行して、週に3回程度の活動を行っています。事前に示されている課題に向けて、実践練習を繰り返しています。特に<創造アイデアロボットコンテスト>や<木工チャレンジコンテスト>に全国大会で上位入賞を果たす常連校として、伝統的に取り組んでいます。

<木工チャレンジコンテスト>

4時間で、一つの木工作品を仕上げる大会です。県大会から始まるこの種目には、3年生男子一人、2年生女子二人、1年生男子二人の5名が出場しました。この大会で優勝した3年生男子は、昨年度に引き続き全国大会に出場しました。

創造アイデアロボットコンテスト



地区の予選を勝ち抜いた3チームが県大会に出場しました。全国大会につながる部門での参加はありませんでしたが、県大会に出場した3チームの成績は、準優勝、3位、4位でした。

可茂地区駅伝大会への参加



10月に可茂地区で開催される駅伝大会にも希望者が参加します。通常の部活動の後に、この時期限定で朝夕の練習を行っています。今年はPTAの方より、神測中学校の男女に一本ずつの襷を作っていただき、男女各1チームで出場しました。記録もさることながら、まずは襷をつなぎきることを目標に取り組んでいます。

豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール



レポートを提出して、事前審査を通過した者のみが県大会で実際に作品作りができます。今年は、1年生女子一人、3年生女子一人の2名が県大会に出場しました。結果は、1年生女子が3位、3年生女子が優勝でした。優勝した生徒は、昨年度に引き続き全国大会に出場しました。

あなたのためのおべんとうコンクール



この部門もレポートを提出して、事前審査を通過したグループのみ、県大会で実際におべんとう作りができます。今年は3年生の男子ペアと2年生の女子ペアが県大会に出場し、2年生ペアが3位入賞を果たしました。



～神測中学校の部活動～



たくさんの活動に挑戦

七宗町立神測中学校



バドミントン部



女子のみの部活動です。1年生7人、2年生3人、3年生8人で活動しています。今年の中体連では、個人戦、団体戦ともに県大会出場を果たしました。女子だけの部活動ということもあり、先輩後輩の仲がたいへん良く、いつも笑顔で活動しています。先輩が後輩の指導を丁寧に行い、1年生の時から実践練習に取り組んでいます。少しでも上位に行けるよう向上心を常にもって活動しています。

可茂地区陸上大会への参加



6月に可茂地区で開催される陸上大会に、希望者が参加します。陸上部はありませんが、学校からは半数以上の生徒が参加します。短距離走や走り幅跳び等希望する種目に応じて、期間限定で練習を実施しています。生徒の実態に合わせて、無理のないように練習をして本番に臨んでいます。毎年、数人の生徒が県大会に駒を進めています。

いろいろなことに挑戦することを第一目標にがんばっています。

野球部



今年度の中体連までは、3年生も含めて野球部員が14名いましたが、現在の部員数は、1年生4人、2年生1人の合わせて5人です。少人数のため、単独で試合形式の練習等はできませんが、野球に情熱を注ぐ顧問とともにいつも真剣に部活動に取り組んでいます。

公式戦への参加をするために、同じ七宗町内の上麻生中学校の野球部と合同チームを作っています。公式戦が近くなると一緒に練習しています。他の学校の仲間と仲良くなるなど普通の学校にはない、部活動のよさも味わっています。

剣道部



1年生(男子4人、女子1人)、2年生(男子2人、女子3人)、3年生(男子4人)で活動しています。少人数のよさを生かして、いつも男女で練習に取り組んでおり、厳しさの中にも思いやりのある活動を展開しています。また、地域の方々からも夜間の練習をする場を設けていただき、個人的にも着実に力を付けています。3年生までには段級審査で2段を取得する生徒もいます。

私たちのPTA

岐阜市立明郷小学校

PTAスローガン

「みとめあい まなびあい たくましく活動する明郷の子」

学校紹介

明郷小学校は、明徳小学校と本郷小学校の統合により、平成二十四年四月に開校した「岐阜市で一番古くて、一番新しい小学校」です（明徳小学校の前身の小熊小学義校の創立は、明治六（一八七三）年一月二十五日）。校区には、岐阜市役所、柳ヶ瀬商店街、岐阜高等学校などがあります。

学校の教育目標は、「みとめあい まなびあい たくましく活動する 明郷の子」です。三年目を迎え、子どもたちは「進んでの心」で、学校や家庭や地域は、「すべては子どものたちのために」を合言葉に、新しい学校づくりに力いっぱい取り組んでいます。

PTA活動目標

「子ども・親・地域とともに」のスローガンをもとに、親と先生方が互いに協力をし合い、家庭から学校、学校から家庭へのお互い理解を深めながら、地域内における子どもたちの健全な環境を作ってあげられることを目的としてPTA活動を行っています。

あいさつ運動

「おはよう」の挨拶から素敵な一日が始まります。

岐阜中央中学校を形成する小学校二校（岐阜小・明郷小）の学校内では、子どもたちの健全育成の充実のため「家庭・地域・学校」が一体となった「あいさつ運動」を五月・十一月の時期に行っています。

学校の門の周りでは六年生の子どもたちが中心となり、進んで挨拶を行う姿が見られます。下級生に「おはよう」「いつてらっしゃい」と高学年らしい優しい言葉がけをして朝が温かくなります。



あいさつ運動
第1回あいさつ運動



あいさつ運動
第2回あいさつ運動

成人委員会の活動

気持ちで始まります。そして下級生も六年生の姿を受け継いでいます。「朝、大きな声で挨拶をすると気持ちがいい」ということに気付き、十一月のあいさつ運動では六年生と一緒に参加を楽しみました。

たくさんの地域の方々の温かい協力により子どもたちが安全に、安心して毎日登校できていることに感謝しています。



家庭教育学級
救命救急

で防災体験を行いました。

岐阜市中消防署よりスモークマシンの機械をお借りし煙を発生させた教室に入り、煙で視界が遮られる体験や人形を使った心肺蘇生訓練を行ったり人工呼吸のコツやAEDの使い方を学んだりもしました。また救助犬による救助訓練の実演なども行い、親子ともどもたくさんの防災体験をしました。

この学校での活動を通していつ起こるか分からない災害に遭遇したとき、親と子で共に自らの命を守りながらも困っている方や救助を求めている人への対応などが実践できるよう今後も安全防災という取り組みに力を入れていきます。



防災体験

みんなで運動

一回骨盤体操では、保護者の交流を大切に講義・実技で骨盤（姿勢の大切さ）を学びました。第二回救急救命では、参加者一人一人がいざという時の行動を救助者発見から実践し、心肺蘇生・AEDを体験しました。救急隊員到着まで平均約六分かかり、その時にできることは、人工呼吸、胸骨圧迫を繰り返すこと。実践は大変でしたが皆で力を合わせれば可能になることを知るなど、日々の学びを大切にしています。

子どもたち、保護者の方々、先生方が一体となって楽しめるよう「みんなで運動」と題し、妖怪ウォッチの体操を全員で踊りました。



妖怪ウォッチ-ダンス講師



妖怪ウォッチ-児童の様子



活動目標
校長室前

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

関ヶ原町立今須小中学校では、小中合同でいろいろな行事や活動を行っています。



小中合同「なかよし遊び」

縦割りグループでの楽しい活動を通して、思いやりの心を育んでいます。



小中合同「表現活動」

本の紹介や合唱交流を通して、意見を交流し合い豊かな表現力を育んでいます。



小中合同「野外活動」

縦割りグループで松尾山登山を行い、やさしさやたくましさを育んでいます。



小中合同「野外活動」

中学3年生から地域の史跡について学び、ふるさとを愛する心を育んでいます。



小中合同「運動会」

全校児童生徒で協力して白熱した戦いを繰り広げます。



小中合同「ひびきあいの会」

自分自身を見つめ、言葉遣いや思いやりの気持ちなど相手を大切にすることについて考えます。

わが子のあゆみ
2015.3 No.437 春風号
第66巻5号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ